

県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

# 大堀城跡

2005. 3

香 川 県 教 育 委 員 会

県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

# 大堀城跡

2005. 3

香 川 県 教 育 委 員 会

## 序 文

「大堀城跡」は県内で有数の平地式城館とされており、堀と土塁の一部が今でも見ることが出来ます。調査の結果、従来から知られた堀と土塁については築造時期を示す資料は得られませんでした。13世紀から14世紀の建物跡や石垣を伴う区画溝などを新たに確認し、この場所に中世前半期に居館が存在したことが新たに判明しました。この内容は、県内の中世城館の特に平地式城館とされている他の遺跡を考える上でも重要な成果です。

本報告書が香川県の中世城館に関する歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から整理・報告にいたるまでの間、香川県道路保全課・善通寺土木事務所維持課および関係機関、ならびに地元関係各位には多大なご理解とご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月

香川県埋蔵文化財センター

所長 中村 仁

# 例 言

1. 本書は県道財田溝濃線道路拡幅事業に伴って平成16年度に実施した大堀城跡（おおほりじょうあ）の発掘調査事業の報告書である。
2. 本遺跡は、香川県仲多度郡溝濃町吉野1189-5外に所在する。
3. 発掘調査は、県土木部道路保全課から依頼された香川県教育委員会が調査主体となり、香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施したものである。
4. 発掘調査体制は以下のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課

課長 北原和利

総務・芸術文化グループ 課長補佐 森岡 修 主任 香川浩章 主任主事 八木秀憲

文化財グループ 課長補佐 大山真充 主任 山下平重 文化財専門員 松本和彦

香川県埋蔵文化財センター

所長 中村 仁

次長 渡部明夫

総務課

課長 野保昌宏 係長 松崎日出穂 主査 塩崎かおり 主任主事 田中千晶

庁務員 松尾倬三 臨時職員 明石聖子 吉原真美

調査課

課長 藤好史郎 参事 河野浩征 文化財専門員 古野徳久 森下英治

調査技術員 中里伸明 臨時職員 宮西（旧姓 細川）真由美

5. 本書挿図中の座標は日本測地系第4系国土座標値に基づき、レベル高はすべてT.P.に統一した。挿図の一部に国土交通省国土地理院発行の1/25,000「普通寺・福良見・滝宮・内田」を、また写真図版の一部に国土交通省提供の国土画像情報（カラー空中写真）を使用した。
6. 遺構番号はS P柱穴、S B掘立柱建物、S A区画遺構、S K土坑、S D溝状遺構、S X不明遺構、の略号を付し、発掘調査において使用したものを踏襲した。したがって、番号設定後に遺構の性格を変更した場合でも、その後の番号変更を行っていない。このため、柱穴であってもS Kに分類されているなど、一部で略号と報告遺構の種別が合致しないものがある。
7. 発掘調査、整理作業にあたっては、地元八幡地区自治会・場正地区自治会・溝濃町教育委員会・琴南町教育委員会・仲南町教育委員会・香川県歴史博物館・香川大学教育学部 田中健二氏・徳島文理大学 大久保徹也氏・丸亀市教育委員会文化課 東信男氏・綾歌町教育委員会 近藤武司氏・松田英治氏、その他関係各位より多大なご協力、ご援助を得た。
8. 本書の執筆・編集は森下が行った。

# 本文目次

1. 調査に至る経緯と経過	1
2. 遺跡の立地と環境	
(1) 地理的環境	1
(2) 歴史的環境	2
3. 調査成果	
(1) 概要	4
(2) 土層序	8
(3) 掘立柱建物及び柵列 (S B)	9
SB001	
SB002	
SB010・SA003	
SB007・SA005・SA006・SD004	
SB008・SA004	
SB009・SB011 (SX004)・SA002	
(4) 石垣を伴う区画溝 (S A)	17
SA001・SD003	
(5) 土坑 (S K・S X)	17
SX001・SK008・SK010・SX005・SK002・SK401・SK402	
(6) その他の溝 (SD)・土器溜り	21
SD001・SD002・SD005および土器溜り・SD007・SD008・SD009・SD011	
(7) 柱穴・包含層出土土器	25
(8) 石器・石製品	27
(9) 金属器関係遺物	28
4. まとめ	31
(1) 遺構分布について	
(2) 出土土器の時間的変化	
(3) 検出遺構の変遷	
(4) 特記すべき出土遺物	
(5) 香川県下の古代～中世の居館跡 (囲郭集落) について	
(6) 大堀城跡の「居館」と「城館」	

付図 1 大堀城跡遺構配置図 1 (S = 1/100)

付図 2 大堀城跡遺構配置図 2 (S = 1/100)

## 挿図目次

- 第1図 大堀城跡周辺の遺跡分布図 (S=1/30,000)  
 第2図 大堀城跡発掘調査全体図 (S=1/800)  
 第3図 大堀城跡平成16年度調査区主要遺構分布図 (S=1/200)  
 第4図 土層断面図 (S=1/60)  
 第5図 掘立柱建物 SB001・SB002 平面図 (S=1/80) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第6図 掘立柱建物 SB010・横列SA003 平面図 (S=1/80) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第7図 掘立柱建物 SB007・横列SA005・SA006・溝SD004 平面図 (S=1/80)  
 第8図 掘立柱建物 SB007・横列SA005・SA006・溝SD004 出土土器実測図 (S=1/4)  
 第9図 掘立柱建物 SB008・横列SA004 平面図 (S=1/80) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第10図 掘立柱建物 SB009・SB011 (SX004)・横列SA002 平面図 (S=1/80) (S=1/20) 及び出土遺物実測図1 (S=1/4) (S=1/2)  
 第11図 掘立柱建物 SB009・SB011 (SX004)・横列SA002 出土遺物実測図2 (S=1/4)  
 第12図 区画溝SA001・排水溝SD003 平面図 (S=1/40) 及び出土土器実測図1 (S=1/4)  
 第13図 区画溝SA001・排水溝SD003 出土土器実測図2 (S=1/4)  
 第14図 区画溝SA001・排水溝SD003 出土土器実測図3 (S=1/4)  
 第15図 方形土坑SX001 平面図 (S=1/40) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第16図 土坑SK008 平面図 (S=1/40) 及びSK008・SK010 出土土器実測図 (S=1/4)  
 第17図 土器埋納坑SX005 平面図 (S=1/40) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第18図 土坑SK401 平面図 (S=1/40) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第19図 土坑SK402 平面図 (S=1/40) 及び出土土器実測図 (S=1/4)  
 第20図 溝SD001・SD002・SD007・SD008 断面図 (S=1/40) 及び溝SD009・SD011 出土土器実測図 (S=1/4)  
 第21図 溝SD005 平面図 (S=1/20)・断面図 (S=1/20・1/40) 及び出土土器実測図1 (S=1/4)  
 第22図 溝SD005 出土土器実測図2 (S=1/4)  
 第23図 柱穴・包含層出土土器実測図 (S=1/4)  
 第24図 石器・石製品実測図 (S=1/4・1/2・1/1)  
 第25図 銅製品実測図 (S=1/2・1/1)  
 第26図 鉄製品実測図 (S=1/2)  
 第27図 輪郭口実測図 (S=1/4)  
 第28図 金属器関連遺物分布図 (S=1/200)  
 第29図 大堀城跡平成16年度調査区遺構変遷図  
 第30図 大堀城跡平成16年度調査区土師質土器変遷図(S=1/4)  
 第31図 大堀城跡周辺の微地形と条里型地割 (S=1/800)

## 表目次

- 第1表 大堀城跡周辺遺跡一覧表  
 第2表 鉄埴・銅埴・不明埴一覧表  
 第3表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(1)  
 第4表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(2)  
 第5表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(3)  
 第6表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(4)  
 第7表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(5)  
 第8表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(6)  
 第9表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(7)  
 第10表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(8)  
 第11表 大堀城跡検出遺構一覧表

## 図版目次

- 写真1 大堀城跡周辺の空中写真  
 写真2 I 区区画溝SA001以南の遺構を北から撮影  
 写真3 I 区遺構分布状況図を北から撮影  
 写真4 II 区SD005以南の遺構を北から撮影  
 写真5 II 区SD006以南の建物復原状況を北から撮影  
 写真6 I 区区画溝SA001及び方形土坑SX001の検出状況を南から撮影  
 写真7 I 区区画溝SA001の石垣を北から撮影  
 写真8 II 区掘立柱建物SB011柱採取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から撮影  
 写真9 II 区掘立柱建物SB011柱採取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から拡大撮影  
 写真10 I 区区画溝SA001下層の青磁小椀出土状況を北から撮影  
 写真11 I 区方形土坑SX001を北から撮影  
 写真12 II 区掘立柱建物SB007柱穴 (SP081) 断面を東から撮影  
 写真13 II 区SP158柱採取後の土器投棄状況の断面を南から撮影  
 写真14 II 区SD005土器溜りA群・B群を北から撮影  
 写真15 IV 区遺構完備状況を北から撮影  
 写真16 III 区西壁断面と堀跡とされる地形の様子を東から撮影  
 写真17 III 区西壁断面と現状の畦に使用される石垣を東から撮影  
 写真18 III 区先端状況を北から撮影  
 写真19 調査区より南の現存土器を東より撮影  
 写真20 調査区より南の堀跡内の出水を西から撮影  
 写真21 II 区調査区内出土の土師質小皿  
 写真22 II 区掘立柱建物SB011柱採取穴SX004 地鎮祭祀遺構出土品  
 写真23 II 区土器廃棄土坑SX005出土の土師質土器坏  
 写真24 I 区区画溝SA001出土の土師質土器  
 写真25 I 区・II 区出土の中国産龍泉系青磁碗  
 写真26 I 区・II 区出土の亀山系須恵器壺・東播系須恵器埴鉢・常滑系陶器大甕  
 写真27 I 区・II 区出土の十瓶山系須恵器壺・鉢・小皿・羽釜  
 写真28 II 区SD005土器溜りA群出土の土師質土器  
 写真29 調査区内出土の石器・石製品  
 写真30 II 区柱穴 (SP177) 出土の金銅裝飾金具表面  
 写真31 II 区柱穴 (SP177) 出土の金銅裝飾金具裏面  
 写真32 調査区内出土鉄器・銅鏡のX線写真  
 写真33 II 区南側出土の鏡土

## 1. 調査に至る経緯と経過

今回報告する大堀城跡は仲多度郡満濃町吉野1189-5外に所在する。南北約170m、東西約110mの範囲に堀や土塁を備え、かねてより中世城館として知られていた。大堀城跡は昭和40年代の香川県遺跡詳細分布調査の成果で中世城館である旨登録され、遺跡地図に記載されている。平成5・6年度に満濃町教育委員会により試掘調査、測量調査が行われている。また、平成9～13年度の香川県中世城館詳細分布調査事業においても分布調査が行われている。遺跡地内を南北に走る県道財田満濃線は綾歌郡域から高知方面へ接続する国道32号線へ向かう主要路線である。

このたび、この路線の拡幅事業について、県土木部道路保全課と文化行政課との間で事前協議が行われ、事業予定地内に遺跡が所在することから、平成15年に文化行政課により、試掘調査が行われた。試掘調査は土塁より内側の4筆の田地に南北に細長いトレンチをそれぞれ1本ずつ設定し、地下構構を確認している(第2図)。その結果、地内南側の1・2トレンチでは耕土直下に基盤礫層が露出し、すでに遺構が削平された状態が確認された。一方、3・4トレンチでは、いずれからも中世の土器類が多数出土し、黄褐色系シルト層上に柱穴が確認された。これにより、今回の調査範囲(調査面積450㎡)について全面発掘調査が必要と判断された。

発掘調査は、香川県埋蔵文化財センターに今年度から設けられた小規模遺跡発掘調査班が担当した。小規模遺跡発掘調査班は県土木関係の小規模遺跡を効率的に調査するためのもので、文化財専門員古野徳久、同森下英治、調査技術員中里伸明、整理作業員宮西(旧姓細川)真由美が発掘調査、整理作業にあたった。現地調査は平成16年10月1日から11月30日まで行い、11月7日には地元自治会等の要望を受け地元説明会を開催した。説明会には約130人の参加を得た。その後の整理作業を埋蔵文化財センターにて同年12月に行った。

## 2. 遺跡の立地と環境

### (1) 地理的環境

大堀城跡は標高約100mの緩やかな傾斜の扇状地上に立地する遺跡である。阿讃山地に端を発する一級河川の土器川は、琴南町の山間部を抜け、満濃町長尾付近を扇頂とする扇状地域に入る。北岸は中世山城の西長尾城(城山)から東に延びる丘陵が琴平町との町境まで続くが、南岸は満濃池周辺の山塊が当遺跡の南東約1km付近で傾斜変換して扇状地面となる。一方、当遺跡の西300mには満濃池から流下する金倉川が蛇行しつつ北流する。この両河川が平野部で最も近接するのが当遺跡付近である。

交通路をみると、土器川沿いに徳島県美馬町側から入る場合、遺跡周辺で急に視界が開ける。一方、徳島県池田町から丸亀平野に侵入する主要なルートは、猪ノ鼻峠を越えて、琴平方面に至るが、琴平を避けて綾歌方面へ抜ける場合は満濃池の堤防下を経由して当遺跡付近で土器川ルートと合流することになる。このように、自然地形および交通網的のみた当遺跡の立地条件は水利・交通の主要点と位置付けることができる。

地質的には地下深くまで扇状地堆積による礫層が堆積し、耕土直下にいわゆる「瓦礫(がらく)」と呼ばれる砂礫層が表出する箇所も多い。ただ、遺跡周辺は後背湿地と呼ばれる旧河川の埋没凹地も多く、そのような窪地が古代から中世にかけて安定した用水を確保できる田地であったことを考えると、古代

より河川灌漑には適した条件を備えていたといえる。一方で、Ⅲ区やⅣ区の礫層を観察すると洪水による被害はたびたび被っていた可能性も考える必要はある。

## (2)歴史的環境

土器川・金倉川上流域は吉野川水系との交通や丸亀平野の水源として重要な地域である。7世紀に築造され、空海が大規模な改修工事を行ったとされる満濃池は、香川用水施工後の現在もなお、丸亀平野の主要な水源である。また、徳島県美馬町に抜ける国道438号線は新たに開通した三頭トンネルの施工以前より、幹線道として利用されていた。

このルート人々の往来は、少なくとも縄文時代まで遡ることが可能である。土器川の上流側の琴南町では河岸段丘上の備中地遺跡（中西 1988）で押型文期の遺物が出土している。これに先んじて、満濃町長尾付近では草創期の有舌尖頭器1点が地元郷土史家の大林英雄氏によって採集されている。

弥生時代では満濃池東岸で少量の土器片が採集されているほか、満濃町長尾町代遺跡では、土器川河川域を望む丘陵先端の平坦面に中期後半の集落跡が確認されている（片桐 1997）。また、羽間遺跡では後期中葉とされる集落が調査され、大型の掘立柱建物が確認されている（信里 2001）。このほか、当遺跡に近隣の吉野八幡神社でかつて境内より出土したとされる銅鐸が、現在志度町の多和文庫に収蔵されている（梅原 1927）。拓本で判断すると、扁平鈕式銅鐸の袈裟襷文部分の破片で、袈裟襷部分と区画面との間に段差がみられる形式である。この形式の銅鐸は、徳島県名東銅鐸をはじめ、本県牟礼町源氏ヶ峰銅鐸など四国北東部でみられるもので、近年普通寺市旧練兵場遺跡で出土した銅鐸片も同様の形式である（財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 2003）。今回の調査においても弥生中期および後期後半の土器片が少量出土していることから、調査地周辺に銅鐸を保有した弥生時代の集落が存在した可能性が高い。

また、羽間遺跡と同一丘陵の満濃町東佐岡では平形銅剣2口（満濃町 1975）が出土している。

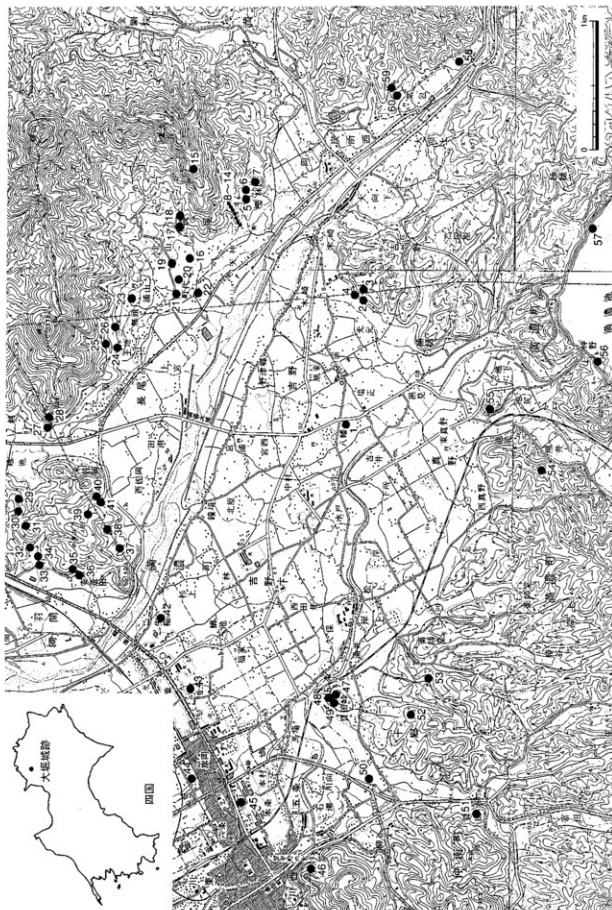
古墳時代前期は当地域に明確な古墳は築かれておらず遺跡動向は不明だが、古墳時代中期～後期に至ると多数の古墳が知られ、また吉野下秀石遺跡（大久保 1997）で多数の甍付堅穴住居が確認されるなど、平野部の集落と丘陵部の古墳群が有機的に関連して分布することが窺える。

古墳は主に3箇所に群を形成する。一つは当遺跡とは土器川を挟んで北岸の長尾の丘陵部に点々と古墳が存在する。このうち天神七塚古墳群は南北に延びる尾根上に小規模な古墳が直線的に分布し、そのうち1基は前方後円墳とされる。部分調査が行われた7号墳の成果からみて、この古墳群は箱式石棺もしくは直葬木棺を埋葬主体部とする中期後半頃の古墳群と考えられる。一方、近接する櫻林清源寺古墳は直径12mの単独で所在する円墳である。同様の規模の古墳が30mほど東の尾根上でも見つかっており、横穴式石室をもつ後期古墳は、やや距離を置きながら尾根単位に1基もしくは数機ずつ分布する可能性が高い。一方この地域では中期から後期を通じて、有力首長墓と目される前方後円墳や大規模円墳等は見られず、在地の小規模勢力が一定の距離を保ちつつ、平野部の耕地開発を進めた状況が想定できる。

満濃町四条の弘安寺跡からは白鳳～奈良期の16葉素弁蓮華文軒丸瓦が出土している（北山 1993）。いち早く寺院建築も手掛けた勢力である。古代の集落遺跡は調査例が少なく、隣接する仲南町買田岡下遺跡（真鍋 2004）で9世紀ごろの掘立柱建物からなる集落単位が知られる。現国道32号線ルートの交通に関わる官的要素をもつ遺跡である。

古代・中世は古墳時代に耕地開発された勢力単位を一定程度維持しながら集落形成が行われたものと





第1図 大堀城跡周辺の遺跡分布図 (S=1/30,000)

番号	GIS遺跡番号	遺跡名	所在地
1	40240035	大堀城跡	溝邊町吉野八幡大堀
2	40240036	南泉寺1号墳	溝邊町吉野旭東南泉寺
3	40240037	南泉寺2号墳	溝邊町吉野旭東南泉寺
4	40240038	南泉寺3号墳	溝邊町吉野旭東南泉寺
5	40240051	櫻林清源寺古墳	溝邊町長尾櫻林
6	40240052	櫻林山の神古墳	溝邊町長尾櫻林
7	40240062	櫻林清源寺2号墳	溝邊町長尾櫻林
8	40240043	天神七ツ塚1号墳	溝邊町長尾天神
9	40240044	天神七ツ塚2号墳	溝邊町長尾天神
10	40240045	天神七ツ塚3号墳	溝邊町長尾天神
11	40240046	天神七ツ塚4号墳	溝邊町長尾天神
12	40240047	天神七ツ塚5号墳	溝邊町長尾天神
13	40240048	天神七ツ塚6号墳	溝邊町長尾天神
14	40240049	天神七ツ塚7号墳	溝邊町長尾天神
15	40240053	金丸城跡	溝邊町長尾天神
16	40240040	北山楠神社塚古墳	溝邊町長尾北山
17	40240041	北山墓地1号墳	溝邊町長尾北山
18	40240042	北山墓地2号墳	溝邊町長尾北山
19	40240063	北山・上田遺跡	溝邊町長尾上田
20	40240064	町代1号墳	溝邊町長尾上田
21	40240065	町代2号墳	溝邊町長尾上田
22	40240067	町代土居屋敷跡	溝邊町長尾町代
23	40240050	天神塚古墳	溝邊町長尾蒲山
24	40240025	断頭墓地1号墳	溝邊町長尾無頭
25	40240026	断頭墓地2号墳	溝邊町長尾無頭
26	40240027	光明寺池上古墳	溝邊町長尾無頭
27	3842019	岡田5号石棺	綾歌町岡田
28	3842020	岡田6号石棺	綾歌町岡田
29	38420134	平石1号墳	綾歌町岡田
30	38420135	平石2号墳	綾歌町岡田
31	40240013	安造田東峠古墳	溝邊町羽間安造田東

番号	GIS遺跡番号	遺跡名	所在地
32	40240014	安造田東1号墳	溝邊町羽間安造田
33	40240015	安造田東2号墳	溝邊町羽間安造田
34	40240016	安造田東3号墳	溝邊町羽間安造田
35	40240017	安造田神社墓古墳	溝邊町羽間安造田
36	40240018	安造田神社前古墳	溝邊町羽間安造田
37	40240019	長尾大隅守一族の墓	溝邊町長尾
38	40240020	佐岡寺跡	溝邊町長尾佐岡
39	40240021	長尾遺跡(平尾瀬川上)	溝邊町長尾佐岡
40	40240022	佐岡1号墳	溝邊町長尾佐岡
41	40240023	佐岡2号墳	溝邊町長尾佐岡
42	40240058	吉野下秀石遺跡	溝邊町吉野下秀石
43	40240028	弘安寺廃寺	溝邊町因桑東村
44	40320006	石川城跡(榎井城跡)	琴平町榎井中ノ町
45	40320007	榎井城跡(榎井城跡)	琴平町五条
46	40320001	愛宕山古墳	琴平町川西
47	40240029	三善山1号墳	溝邊町五条三善
48	40240030	三善山2号墳	溝邊町五条三善
49	40240031	三善山3号墳	溝邊町五条三善
50		買田岡下遺跡	仲南町十懸買田
51	40590002	丸山城跡	仲南町十懸買田
52	40590001	買田峠古墳	仲南町十懸買田
53	40240034	榎谷古墳	溝邊町岸上格谷
54	40240075	丸山城跡	溝邊町真野
55	40240039	小山古墳	溝邊町神野9
56	40240073	神野寺跡所跡	溝邊町神野
57		溝邊池東岸遺跡	溝邊町吉野高屋原
58	40240068	常包城跡	溝邊町炭所西常包
59	40240056	吉田神社前1号墳	溝邊町炭所片岡南
60	40240057	吉田神社前2号墳	溝邊町炭所片岡南
62		吉野八幡神社遺跡出土地	溝邊町吉野八幡

第1表 大堀城跡周辺遺跡一覧表

※GIS番号は平成16年度香川県歴史文化センター作成の「香川県遺跡地図情報」データに準拠

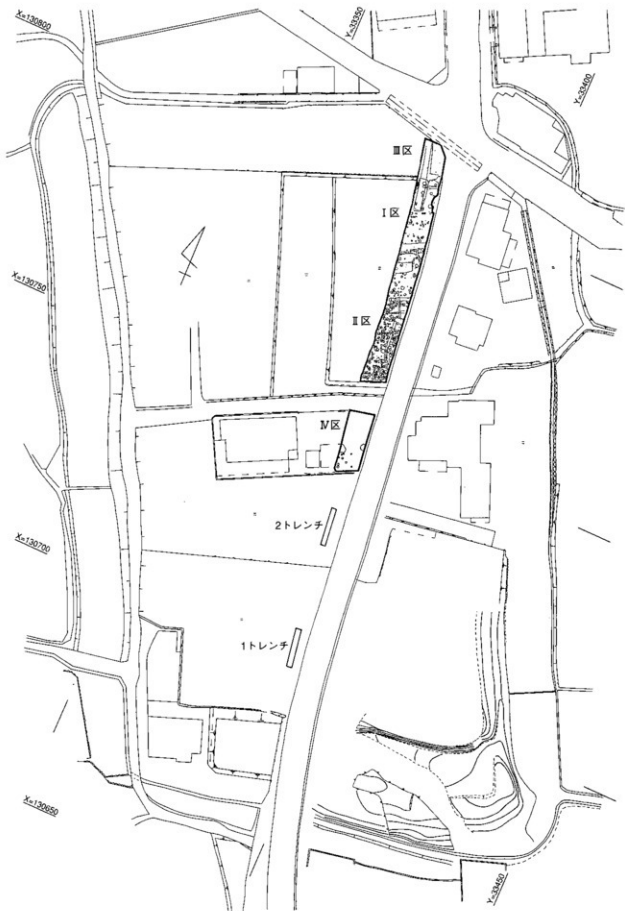
推定される。調査地は「和名抄」那珂郡十一郷の一つである良野郷に比定され、「尼真如所願讀状案」(正文文書)によれば鎌倉期弘安5年の岩松時兼先祖相伝所領を藤原土用王御前に讀った旨の記載があり、さらにその後建武元年(1334)に藤原妙連が岩松直国に讀ったとも記載される。また、中世後半の戦国期に向かうにつれ、各丘陵に山城が築かれる。南海治乱記によれば、当時千人ほどの単位で土豪武士層が統括された事例が多く、郷内にも新興勢力が生じていたことを反映する。

### 3. 調査成果

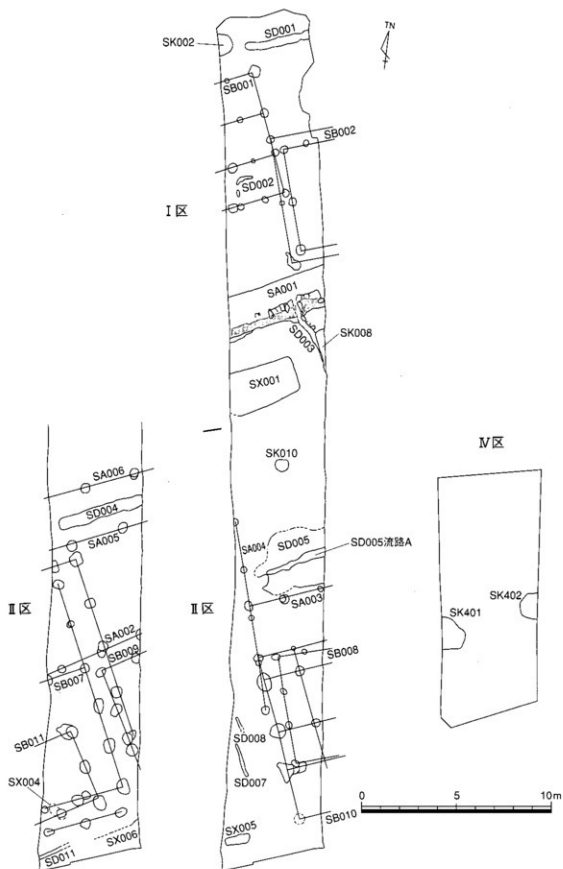
#### (1)概要

今回の発掘調査は当初16世紀頃の戦国期城館跡を調査の主眼として考えていたが、調査の結果13～14世紀の溝で区画された居館が確認された。また、これまで土塁や堀が推定されていた場所では、堀を確認するに至らず、土塁が比較的幅広く存在した可能性が指摘できるととどまった。ただし、居館の区画溝は小規模ながら石垣を伴っており、柱穴の規模は直径60～100cmに及ぶ大型のものもあることから、これまで県下で確認された居館と比較すると、遺構の面から見てやや異質である。

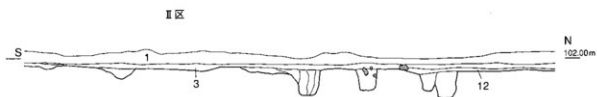
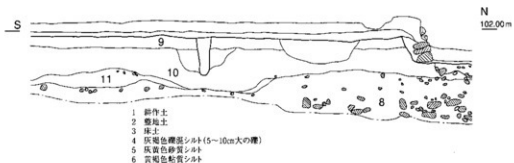
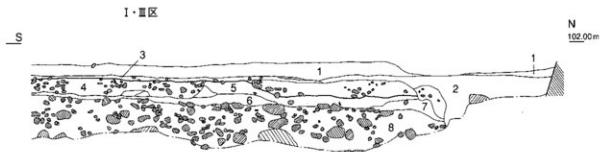
調査区は県道西側に接して南北に細長い。調査順に従ってⅠ区からⅣ区に区分した。Ⅰ区では石垣を伴う区画溝とその北側に掘立柱建物2棟、Ⅱ区では区画溝より南側の多数の柱穴(約230基)、Ⅲ区



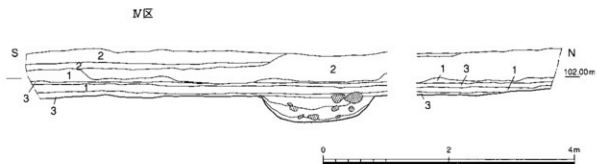
第2図 大堀城跡発掘調査全体図 (S=1/800)



第3図 大堀城跡平成16年度調査区主要遺構分布図 (S = 1/200)



- 7 黄褐色粘質シルト  
8 灰色砂礫  
9 黄褐色シルト(粘性強い)  
10 黄褐色シルト(粘性弱い)  
11 灰褐色中砂  
12 暗灰褐色砂質シルト

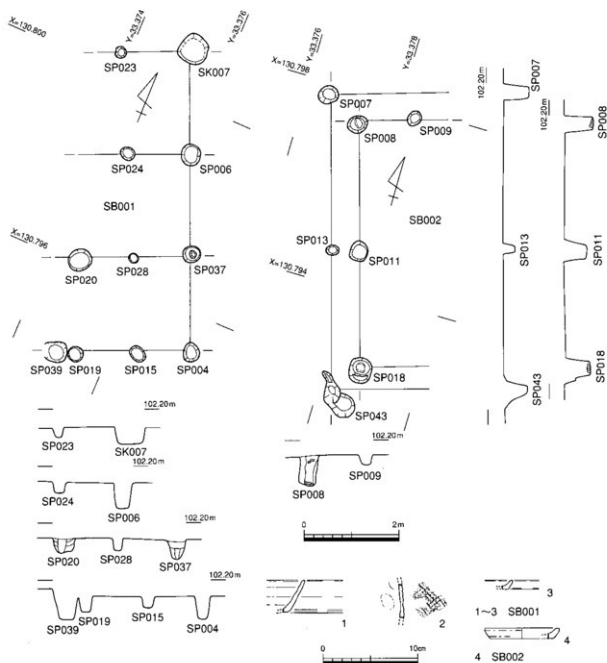


第4図 土層断面図 (S=1/60)

では削平された土塁痕跡、Ⅳ区では散漫な柱穴・土坑分布が認められた。Ⅱ区では掘立柱建物を7棟、横列の可能性がある柱穴列を5基確認した。

## (2)土層序

調査地内は特にⅠ区・Ⅱ区を中心に多数の遺構がみられたが、これらはすでに上部を削平されており、現在の耕作土・床土を除去するとその直下に橙褐色～灰黄色粘質シルトの基盤層がみられる。Ⅱ区のSD005とした範囲は、深さ4～10cmほどの浅く幅広い落ち込みである。複数の雨落溝が重複した状態と考えられる。また、Ⅰ区北端からⅢ区にかけての西壁断面では、基盤層中に河川氾濫による礫層とそれを覆うシルト層の関係を把握できたが、出土遺物がないことから河川氾濫の時期は特定できない。堀跡が想定されたⅢ区では、基盤層を不整形に切り込む浅い落ち込みが認められる。しかし、堀跡を示すような規模ではないことから、土塁を後世に削平する過程で形成された窪みと考えられる。



第5図 掘立柱建物SB001・SB002平面図(S=1/80)及び出土土器実測図(S=1/4)

IV区は北半が暗褐色粘質シルト層、南半が洪水堆積の礫層を基盤とする。当初両層の平面的層界が周辺地割に合致するように観察されたことから、いずれかの堆積層が遺構埋土の可能性があると考え、トレンチを入れて確認したが、いずれも基盤層と判断された。

### (3) 掘立柱建物及び柵列

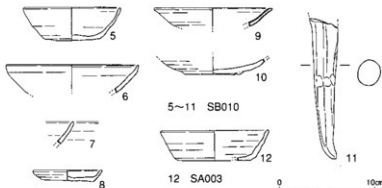
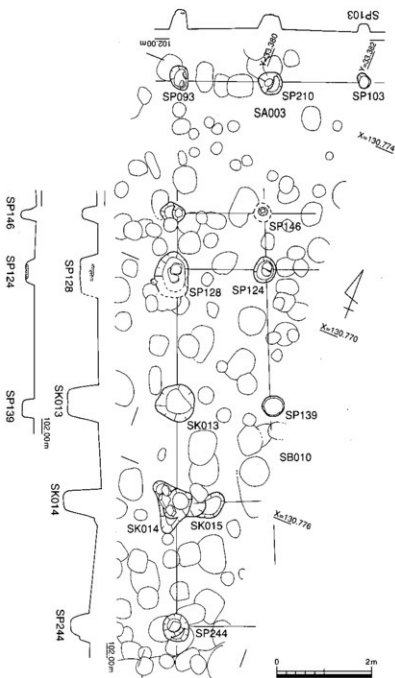
#### <掘立柱建物 SB001>

I区の区画溝より北側に位置する建物である。南北3間(6.2m)で、東西は3間以上(3.2m以上)の規模をもつ。建物方位はN-23°W。東端柱筋の柱穴は直径38~60cmと規模が大きく、東から2列目柱筋の柱穴は直径20~36cmと小さく浅い。したがって、東端が隅柱、2列目が東柱と想定できる。また、SP019・020・039の3穴も南北筋が不一致のため、東柱と考えられる。埋土は各柱穴とも淡灰褐色系砂質シルト層で、直径15~18cmの柱痕部は暗灰色粘質シルト層である。

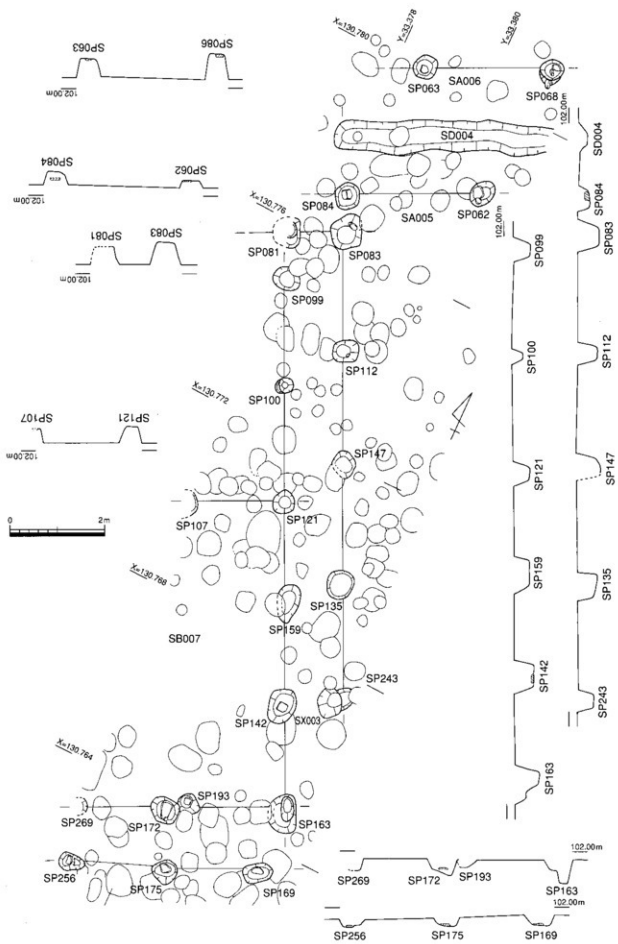
出土遺物は、1・3が土師質土器で坏・小皿、2は亀山系須恵器妻体部片である。これらの出土遺物から、13世紀後半頃の年代が考えられる。

#### <掘立柱建物 SB002>

I区の区画溝より北側に位置する建物である。南北2間(5.1m)で、東西は2間以上(1.8m以上)、西側に庇をもつ。庇を含

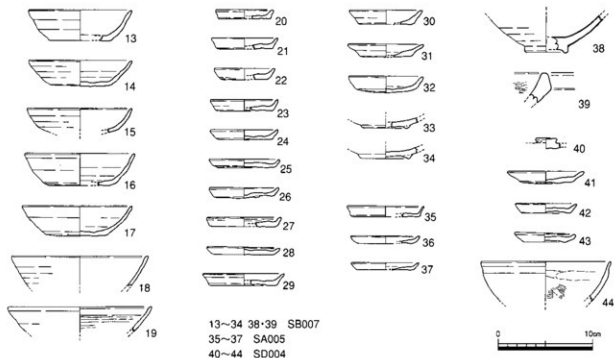


第6図 掘立柱建物SB010・柵列SA003平断面図(S=1/80)及び出土土器実測図(S=1/4)



第7図 掘立柱建物 SB007・柵列 SA005・SA006・溝 SD004 平断面図 (S=1/80)





第8図 掘立柱建物 SB007・柵列 SA005・SA006・溝SD004出土土器実測図 (S=1/4)

めた南北規模は6.2m。建物方位はN-16°Wで、SB001よりやや東に振る。建物西側の隅柱と想定されるSP008・018は、20cm大の根石をもつ。柱痕は直径約18cm。各柱穴とも埋土は暗灰褐色系シルト層である。建物範囲はSB001と重複するが、切り合い関係がないため先後関係は不明。

出土遺物は少量で、4の土師質土器小皿が1点出土した。

#### <掘立柱建物 SB010・柵列SA003>

Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物である。南北3間(7.5m)で、東西は2間以上(3.6m以上)、北側に2.7m離れて東西方向の柵列SA003がある。柵列は延長2間(4.0m)分検出しさらに東に延びるものと考えられる。建物・柵列方位はN-23°W。柱穴の規模は西側の3穴(SPI28・SK013・SK014)が直径80~100cmと規模が大きく、北側東西列と東側南北列は30~40cmサイズである。西の3穴が側柱で、北側東西列は庇の可能性が高い。側柱はいずれも廃絶時に柱を抜き取り、多量の焼土塊とともに20~30cm大の砂岩垂円礫を投棄している。柱痕は直径26~30cmをはかる。

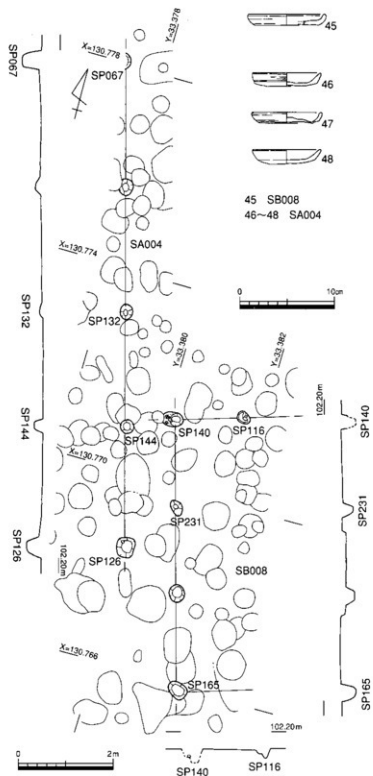
SB010の出土遺物は5・6が土師質土器杯、8が土師質土器小皿、10が土師質土器碗、7が十瓶山系須恵器碗、9が中国産白磁皿、11が土師質土器羽釜脚部である。

SA003の出土遺物は12の土師質土器杯がある。

これらの土器から、13世紀末から14世紀前半ごろの時期が考えられる。

#### <掘立柱建物 SB007・柵列SA005・SA006・溝SD004>

Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物である。南北5間(11.0m)で、東西は2間以上(4.5m以上)。建物方位はN-25°W。南に1.2m離れた東西の柱穴列は、建物南側柱に対応しており、縁が附属するものと想定される。また、建物東側にも1.2m離れて南北柱穴列があるが、建物東側柱とは柱筋がずれる。したがって建て増しの庇か、もしくは柵列と考えられるが、ここでは庇として建物に含めた。庇北端柱穴



第9図 掘立柱建物SB008・柵列SA004平断面図(S=1/80)及び出土土器実測図(S=1/4)

しさらに北に延びるものと考えられる。建物・柵列方位はN-16°Wで、SB002に一致する。柱穴の規模は建物・柵列ともに直径30cmほどと、比較的小さいものが多い。

出土遺物はSB008より土師質土器小皿1点、SA004より同4点が出土した。いずれも口径7～8cm

SP083の西には建物東側柱筋の延長上にSP081があり、北側にも底が取り付くものと考えられる。柱穴規模は直径40～80cmである。なお、建物の南から3間目には東柱SP107がある。

建物北側には底の柱筋から80cm離れて東西柵列SA005、その北にSD004と柵列SA006がある。いずれもSB007の方位に合致する。SD004は暗灰色砂質シルト層を埋土とする幅約50cm、深さ約10cmの溝で、柵列と平行して直線的に東へ延びる。

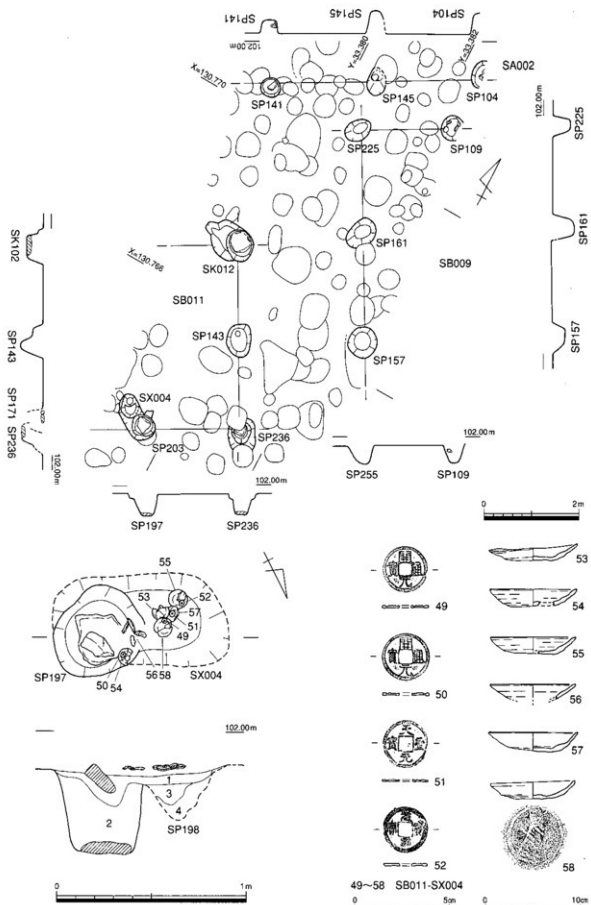
SB007の出土遺物は13～17が土師質土器杯、20～32が土師質土器小皿、33が須恵器碗、34が土師質土器碗である。そのほか18・19は和泉型瓦器碗、38は中国産龍泉窯系青磁碗、39は土師質土器钵鉢である。

SA005では35～37の土師質土器小皿が出土した。SD004は40が8世紀の須恵器杯壺片、41～43が土師質土器小皿、44が黒色土器碗である。

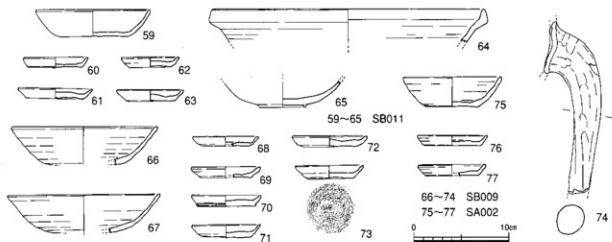
一部古い時期の土器が混在するが、概ね13世紀後半頃の年代が考えられる。

#### <掘立柱建物SB008・柵列SA004>

Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物である。南北3間(5.7m)で、東西は2間以上(2.5m以上)、西側に1.1m離れて南北方向の柵列SA004がある。柵列は延長4間(9.9m)分検出



第10図 掘立柱建物 SB009・SB011 (SX004)・柵列 SA002 断面図 (S=1/80) (S=1/20) 及び出土遺物実測図1 (S=1/4) (S=1/2)



第11図 掘立柱建物 SB009・SB011 (SX004)・柵列 SA002 出土遺物実測図 2 (S=1/4)

をはかり、13世紀前半代に収まるものとする。

<掘立柱建物 SB009・SB011 (SX004)・柵列 SA002 >

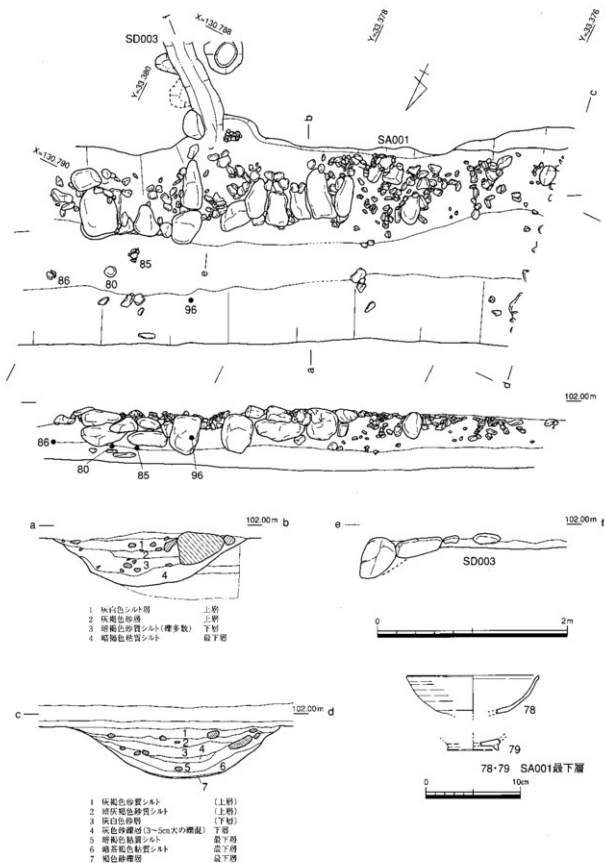
Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物2棟、柵列1基である。SB009は南北2間以上(5.3m)、東西は2間以上(2.1m以上)。柱穴規模は直径50～70cmをはかる。SB011は南北2間(3.9m)東西2間以上(3.1m)。建物方位はいずれもN-28°-Wである。柵列SA002はSB009の北1.0m離れて延長3間(5.2m)分検出し、さらに東西に延びるものと推定される。なお、建物SB009南北側柱列から西に0.5mに南北柱穴列が附属する。西庇と考えられるが、柵列SA002と交わる部分だけ柱間距離が狭いことから、柵列である可能性もある。

SB011は隅柱および南側柱に根石をもち、柱穴規模は70～80cm大である。いずれの柱穴も建物廃絶に伴って柱を抜いた痕跡があり、そのうちSP197(SX004)は抜き取り後に土師質土器の皿6枚と、そのうち4枚の皿の上に銅銭1枚を乗せ、直近に鉄器(315・316)を配置していた。建物廃絶に伴う地鎮祭祀遺構と推定される。銅銭はいずれも中国銭で、唐代の開元通宝(49・50)と北宋代の天聖元宝(51)がある。

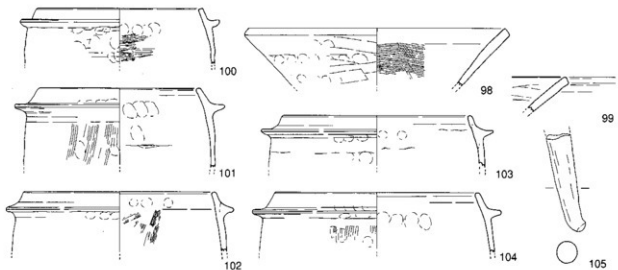
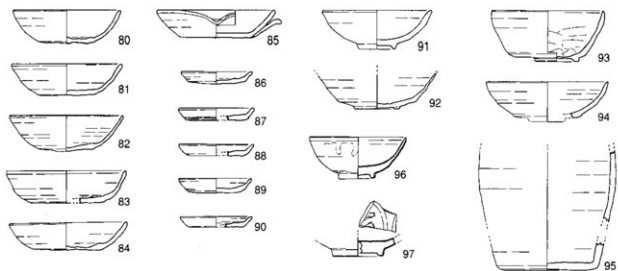
SB011出土遺物は、まずSP197(SX004)の柱抜き取り穴最終埋没時の地鎮遺構より土師質土器皿6点が出土している。53～58はいずれも口径約9cmで口縁部が外上方に大きく開く形態の特徴と、回転ヘラ切り後体部に強い横ナデがみられる技法の特徴を共有する。また胎土中に粒径の揃った微細な砂粒を多く含む点も共通し、今回出土した多数の土師質土器中に同様な胎土を見いだすことができないことから、この6点の皿は他地域からの搬入品の可能性もある。そのほかのSB011出土土器は59が土師質土器杯、60～63が土師質土器小皿、65が土師質土器碗、64が東播系須恵器控鉢である。

SB009出土遺物は66が黒色土器碗、67が土師質土器碗、68～73が土師質土器小皿である。このうち73は底部糸切り技法による。74は土師質土器羽釜脚部片である。

SA002出土遺物は75が土師質土器杯、76・77は土師質土器小皿である。

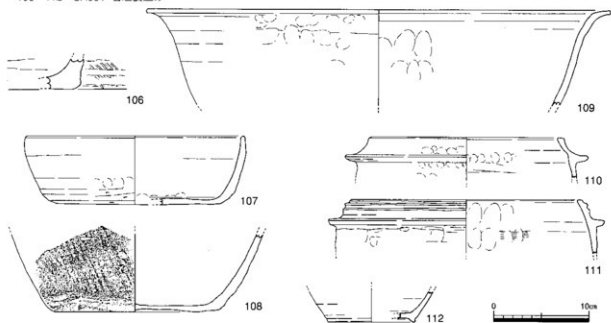


第12図 区画溝SA001・排水溝SD003平面図 (S=1/40) 及び出土土器実測図1 (S=1/4)

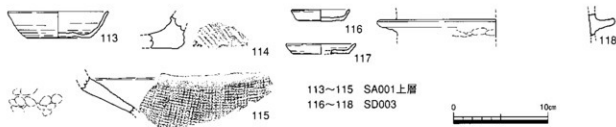


80~105 SA001 下層

106~112 SA001 石垣裏込め



第13図 区画溝SA001・排水溝SD003出土土器実測図2 (S=1/4)



第14図 区画溝SA001・排水溝SD003出土土器実測図3 (S=1/4)

#### (4)石垣を伴う区画溝

##### <区画溝SA001および排水溝SD003>

I区で確認した幅2.0m、深さ0.5mの断面U字形の溝である。南肩部に砂岩の亜円礫を2～3段積み上げ、拳大の円礫を裏込めに使用する石垣を伴う。走行方向はN-27°-Wと直交する。埋土は最下層に堅く締まった褐色粘質シルト層が堆積し、少量の土器片が伴う。この最下層は石垣基底石の下部にも認められ、石垣構築以前の堆積層と考えられる。下層とした灰白色～灰褐色砂層では13世紀～14世紀中葉までの多くの土器類が出土した。また、石垣の裏込土中からも同時期の土器片が出土する。これらの土器類は石垣が機能した時期を示すものと考えられる。上層の灰褐色粘質シルト層には、14世紀後半までの土器が含まれるが、土器量は多くない。

南北に走行して石垣の南肩部に取り付け排水溝SD003は、幅0.3m、深さ0.1mの断面U字形の溝で、SA001に向かって溝底が若干下がりが合流する。主に東肩部に大型の石材が配置され、石材抜き取り痕跡もみられる。石垣前端から約2mの範囲に礫を配置していたものと考えられ、その範囲が暗渠になっていた可能性が高い。したがって石垣の南側に土堤状の盛土があったものと想定される。排水溝が接する部分の石垣は、石材を縦に使い、石材間に約23cmの間隔をとどめる。

出土遺物は最下層で78・79の黒色土器碗が出土している。

下層では80～85の土師質土器杯、86～90の土師質土器小皿、91・92の土師質土器碗、93・94の須恵器碗、95の須恵器壺、96の中国産青磁碗、98の土師質土器捏鉢、99の須恵器捏鉢、100～105の土師質羽釜がある。このうち、85の土師質土器杯は片口である。また、96の青磁碗は口径10cmほどの小型品(小碗)で外面は無文。口縁端部外面に軸のかけ流しがみられる。97の青磁碗は内面見込部に形の崩れた蓮弁文が施文される。土師質土器羽釜はいずれも口縁部から大きく下がつて鈔を貼り付けるものである。

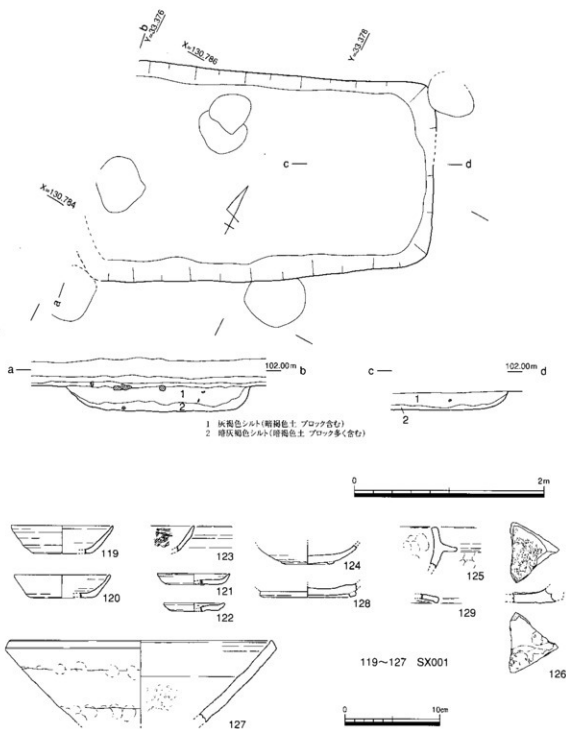
石垣裏込め土中より、106・108の十瓶山系須恵器甕底部片、107の同須恵器鉢、109の土師質土器土鍋、110・111の土師質土器羽釜、そのほか112の9世紀ごろの須恵器杯底部片が出土した。

上層では113の土師質土器杯、116・117の土師質土器小皿、118の土師質土器羽釜、114の十瓶山系須恵器甕底部片、115の亀山系須恵器甕がある。

#### (5)土坑

##### <方形土坑SX001>

石垣を伴う区画溝SA001の南1.8mで、方向を同じくして確認した東西に長い方形土坑である。東西3.7m以上、南北2.0～2.2m、深さは0.2mで底面は平坦である。埋土は褐色シルト質土と黄灰色土が塊状に混じることから、一度に埋め戻されたものと考えられる。区画溝SA001の上層とほぼ同時期の土

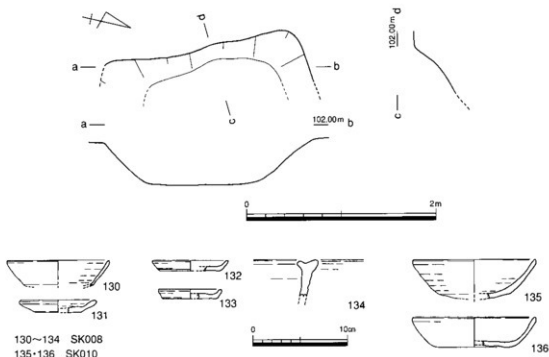


第15図 方形土坑SX001平断面図(S=1/40)及び出土土器実測図(S=1/4)

器群が出土する。接合はしないが、同一個体と推定される土器片もあることから、SA001と同時に機能した時期があったことがわかる。

出土遺物は119・120が土師質土器杯、121・122が土師質土器小皿、123・124が須恵器椀、125が土師質土器羽釜、126は常滑系陶器大甕底部片、127は須恵器握鉢、128・129は8世紀代の須恵器杯である。このうち、126は胎土中に白色砂粒が多く含まれ、底部見込みに多量の砂目が残る。これらは多くが13世紀後半～14世紀前半に所属する。





第16図 土坑SK008平面図 (S=1/40) 及びSK008・SK010出土土器実測図 (S=1/4)

#### <土坑SK008>

区画溝SA001の南で調査区の東端に接して確認した土坑である。大部分が現県道下に埋没し、調査区内には遺構の西端のみが確認される。遺存部の形状から、平面形は隅丸方形と推定され、重複する排水溝SD003より新しい。南北2.2m、深さ0.45m以上の規模で、方向はN-23°Wである。埋土は暗灰色粘質シルトに地山ブロックが混じる。位置的に見て、SA001の延長方向に一致することから、東に延びる溝の西端部の可能性もあり、あるいは井戸状の遺構である可能性もある。

出土遺物は土師質土器坏1点と土師質土器小皿3点、土師質土器土鍋口縁部片1点がある。130の坏は体部下端に稜線をもち、口縁部が屈曲して斜め上方に立ち上がる形態をもち、14世紀前半位置づけられる。134の土鍋は2個1対の把手部に向かって口縁端部が肥大しつつある部分の破片である。

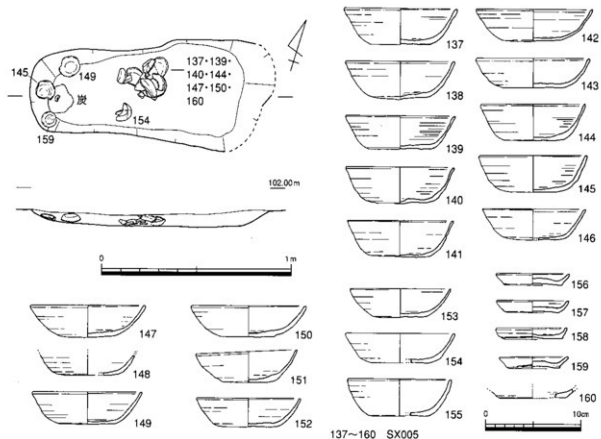
#### <土坑SK010>

長径0.7mの不整形の土坑である。深さは0.1mほどと浅い。埋土は灰褐色系シルトである。土師質土器坏2点が出土している。135は体部下端が丸みを帯びる形態、136は体部下端に稜線をもち底面が平坦な形態である。

#### <土器埋納坑SX005>

掘立柱建物SB007の南縁柱穴SP256の南に接して確認した、東西長さ1.3m、幅、0.45~0.55m、深さ0.1mの不整形の土坑である。側壁は斜め上方に立ち上がり、底面は平坦である。埋土下部に濃密な炭層が堆積し、その直上で土師器坏を主体とする遺存状態の良い土師質土器が出土した。坏20点、小皿4点がある。

土師質土器坏はいずれも形態が似通っており、体部下半の稜線が目立たず、丸みを帯び、底面が平坦で器壁が薄いものが多い。小皿は口径7.7~7.8mmで底面はいずれも糸切り後ナデ調整を行い、その際



第17図 土器埋納坑SX005平断面図(S=1/40)及び出土土器実測図(S=1/4)

の圧力でやや上げ底状の器形を呈する。これらは13世紀前半に一般的な特徴である。

#### <土坑SK002>

I区北端の西壁沿いで確認した円形土坑である。10～15cm大の礫を多量に投入し、灰色シルト層で埋めている。明治時代ごろの柴片が出土している。

#### <土坑SK401>

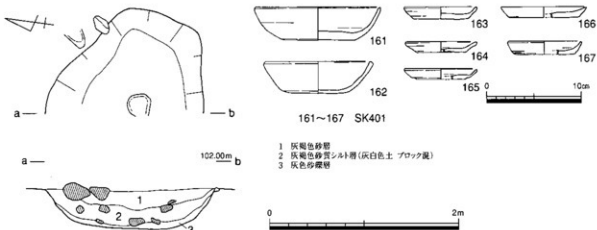
IV区西壁沿いで確認した直径約1.8m、深さ0.4mの土坑である。平面形はいびつな円形で、埋土中には5～20cm大の礫が多量に投棄される。土層堆積は最下部に砂礫層、上部にむかつて次第に粘質を帯び、U字状に層界がみられる。比較的長期にわたって漸次埋没したものである。

出土遺物は土師質土器坏2点、土師質土器小皿5点がある。坏・小皿ともに底面は平坦かやや上げ底気味の形態で、下部に影れるものはない。

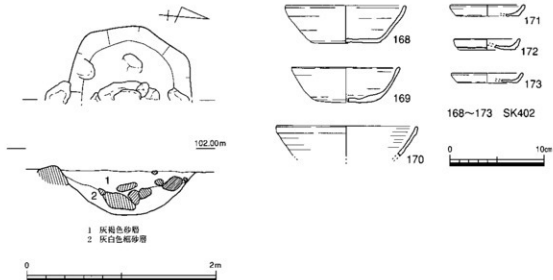
#### <土坑SK402>

IV区東壁沿で確認した直径1.3m、深さ0.45mの土坑である。平面形は調査範囲内で半円形を呈する。SK401と同様に5～20cm大の礫が多量に投棄される。土層堆積は最下部に砂礫層、上部にむかつて次第に粘質を帯び、U字状に層界がみられる。比較的長期にわたって漸次埋没したものである。

出土遺物は土師質土器坏3点、土師質土器小皿3点がある。坏は他の遺構出土のもの比べ、口縁部の立ち上がりが直線的で長い特徴がある。小皿は平底か上げ底である。



第18図 土坑SK401平断面図 (S = 1/40) 及び出土土器実測図 (S = 1/4)



第19図 土坑SK402平断面図 (S = 1/40) 及び出土土器実測図 (S = 1/4)

#### (6) その他の溝 (SD) ・土器溜り

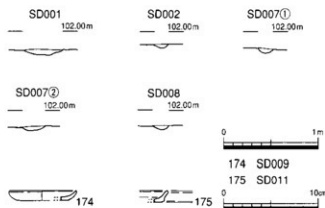
区画溝や建物に伴う溝についてはすでに報告したが、それ以外の溝についてここで報告する。

##### <溝SD001>

I区北端の東西溝である。幅0.45m、深さ0.06m、走行方向はN-20°-W直交で、埋土は暗黄灰色シルト層。SB002に概ね平行するので建物に伴う可能性はあるが、溝以北に土塁が想定されており、土塁の南端を画する溝の可能性もある。中世土師質土器小片が出土している。

##### <溝SD002>

I区の区画溝SA001より北側に位置する幅0.2m、深さ0.04mの逆L字状に屈曲する溝である。位置的にSB001と重複し、溝の方向はSB002と一致するので、SB002と関連する同時期の溝と考えられる。埋土は暗灰褐色シルト層。



第20図 溝SD001・SD002・SD007・SD008断面図(S=1/40)及び溝SD009・SD011出土土器実測図(S=1/4)

#### <溝SD005および土器溜り>

Ⅱ区中央部付近で確認した溝状の浅い落ち込みである。底面は緩やかに東に傾斜しており、調査区西端では平面的に捉えることができなかったが、西壁断面に同様の堆積土が薄く見られる。調査区と直交して東西方向に浅い窪みが形成されていたものと推定される。埋土は淡灰色～灰褐色粗砂および砂質シルト層で、雨水等少量の流水痕跡と考えられる。流路Aとした溝は、最終的埋没した段階の流水幅を反映するものであろう。

埋土中には多量の土器類が投棄され、土器溜りを形成する。それらを出土位置を元にしてA～Fの6群に区分した。このうちA群の遺物量が最も多い。なお、A群の土器を除去した後に確認した柱穴SP211には柱抜取穴と考えられる位置から多量の土器器が出土した。したがって、SP211の柱を抜き取った直後にSD005が形成され、柱痕の窪みにA群土器が落ち込んだものと考えられる。

176～197はSP211およびA群出土の土器である。176は十瓶山系須恵器碗口縁部片である。口縁部外面に幅1cmほどの黒色帯が走る。177～181は土師質土器環である。体部下端が丸みを帯びるものが多い。小皿は口径7～8cmで、底面が平坦あるいは上げ底のもの(182～193)と、ヘラ切り後に内面見込部から底面を押し下げて丸みをもたせるもの(194・195)がある。196は土師質土器鉢、197は土師質土器羽釜である。これらの土器群は13世紀中葉頃に位置づけられる。

198～201はB群出土の土器である。土師質土器環・小皿ともに底面は平坦で、口縁部は体部下端の稜線から斜め上方に直線的に立ち上がる形態である。小皿底面は200がヘラ切り後若干のナデ調整を加えたのみのもの、201はヘラ切り後に板状圧痕を施して丁寧なナデ調整を行うものである。

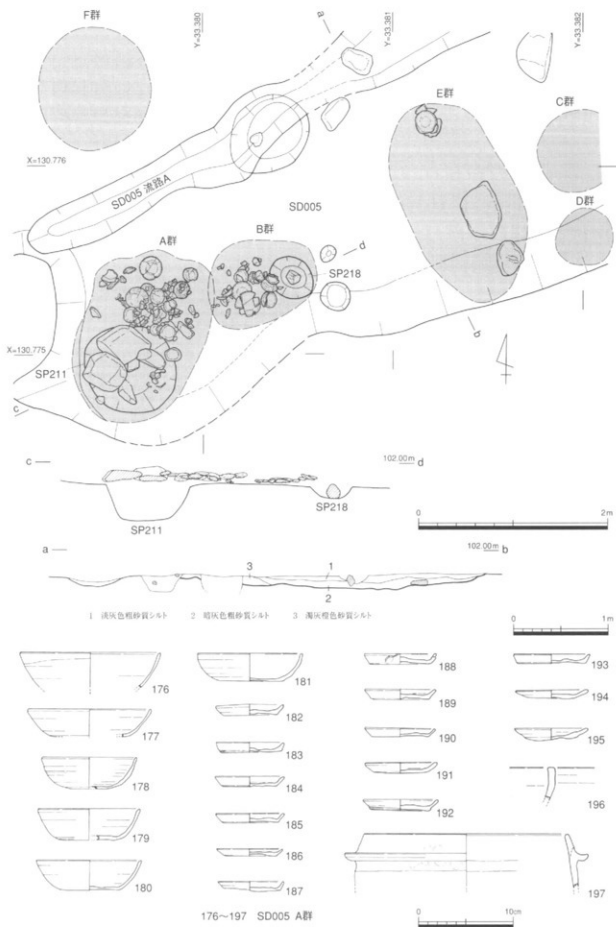
202～205はC群出土の土器である。土師質土器環2点と土師質土器小皿2点がある。203の環は口縁部外面に強くナデによる複数の稜線をもち、体部下端は丸みを帯びる。

206～211はD群出土の土器である。206と207の土師質土器環は底面に強い板状圧痕を認める。208～211の小皿はいずれも口径が7.3cm以下でやや小振りのものが目立つ。208の底面は井桁状に板状圧痕を施す。

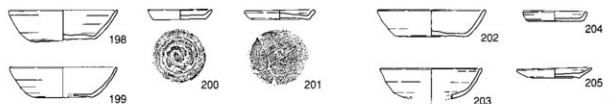
212～221はE群(土師観察アゼに含まれていたものを含む)出土の土器である。土師質土器環は口縁部の立ち上がりが長く直線的な212・213と、口縁部がやや短く体部下端が丸みを帯びる214・215がある。土師質土器小皿は、底面がやや丸みを帯びる216～218と、平坦な219～221がある。

222～226はF群出土の土器である。土師質土器環・小皿ともに体部下端の稜線部から口縁部が直線的に斜め上方に立ち上がる形態である。

227～229は流路Aとした最終埋没溝出土の土器である。229は十瓶山系須恵器の羽釜脚部片である。

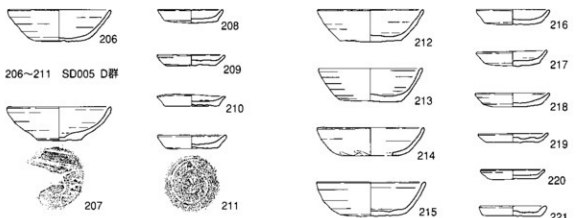


第21図 溝SD005平面図 (S=1/20)・断面図 (S=1/20・1/40) 及び出土土器実測図1 (S=1/4)



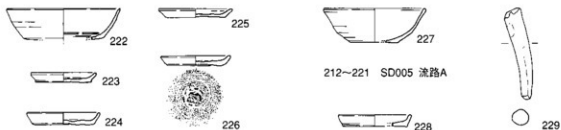
196~201 SD005 B群

202~205 SD005 C群



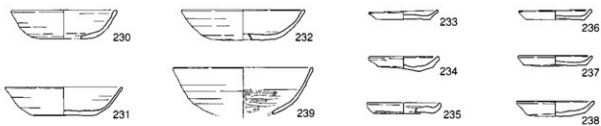
206~211 SD005 D群

212~221 SD005 E群

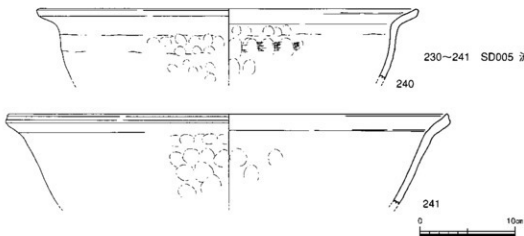


222~226 SD005 F群

212~221 SD005 流路A



230~241 SD005 流路B



第22図 溝SD005出土土器実測図2 (S=1/4)

230～241はSD005流路域全体から一括取り上げられた土器である。230～232は土師質土器坏、239は十瓶山系須恵器碗、235は十瓶山系須恵器小皿、233・234・236～238は土師質土器小皿である。234・238は底面ナデ調整時に見込部から強く押されて底面が丸みを帯びる形態である。240・241は土師質土器土鍋である。

#### <溝SD007>

Ⅱ区南側で確認した幅0.2m、深さ0.05mの細く浅い溝である。埋土は灰褐色シルトで、N-27°-Wの方向に延長1.8m分検出した。雨落溝と考えるとSB010に伴う可能性があるが、2.3mの間隔があるので確実ではない。

#### <溝SD008>

SD007の東北で平行する方向をもつ溝である。延長線上でSD007とは0.5mの間隔がある。雨落ち溝の可能性はあるが関連する建物は不明。埋土は灰褐色シルト。

#### <溝SD009>

Ⅱ区中央付近で確認した小規模な溝である。埋土は灰褐色系シルト。いずれの建物とも方向が合致しないが174の土師質土器小皿が出土している。

#### <溝SD011>

Ⅱ区南端で確認した東西方向の小規模な溝である。幅0.18m、深さ0.06cmでN-70°-Eで東に走行する。方向性と位置から見て、SB011に伴う雨落溝の可能性が高い。175の土師質土器小皿が出土している。

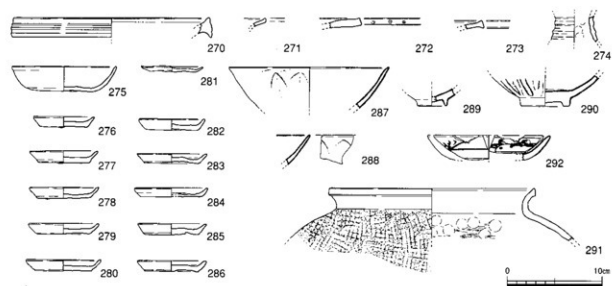
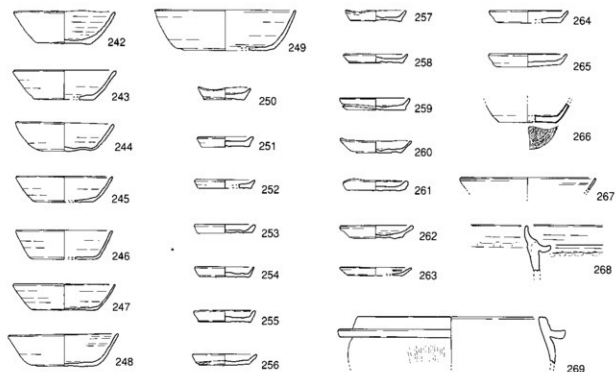
### (7)柱穴・包含層出土土器

掘立柱建物を復原できなかった柱穴の出土土器（242～269）と包含層出土の土器（270～291）をまとめた。

242・243は口縁部が直線的に斜め上方に立ち上がる形態の土師質土器坏、244～249は体部下端が丸みを帯びる形態の土師質土器坏である。250～258は口径7.0cm以下の土師質土器小皿、259～265は口径7.0cm以上の土師質土器小皿である。266・267は中国産白磁皿で、266は森田分類のⅡ類である。268・269は土師質土器羽釜である。

270～274は今回の調査地内で包含層や遺構等に混入していた弥生土器片である。270は口縁部を拡張し3条の凹線文を施文する広口壺口縁部片である。弥生時代中期後半に位置づけられる。271は甕口縁部小片である。口縁部部下端が丸みを帯び、上方にややつまみ上げる形状で、弥生時代中期中葉ごろと考えられる。272は口縁部が大きく開く形態の壺口縁部片である。口縁部端面に竹管文を間隔をおいて刺突する。後期後半に位置づけられる。273は壺口縁部片である。274は細頸壺の頸部片で外面に凹線文を施文するものである。273と274は中期後半に位置づけられる。

275～291は包含層や遺構検出中に出土した土器である。275は土師質土器坏、276～286は土師質土器小皿である。287・288は中国産龍泉窯系青磁碗の口縁部片である。外面に簞蓮弁文を配する。289・290も同青磁碗の底部片である。290の外面には簞蓮弁下部の施文である。292は今回の調査で出土し



第23図 柱穴・包含層出土土器実測図 (S=1/4)

た土器のうち中世以後のもので最も古いと思われる肥前系磁器染付皿である。現耕作土直下の明黄色床土層より出土したものである。18世紀後半ごろに位置づけられる。これ以外の中世以後の土器はほとんどみられない。

#### (8) 石器・石製品

調査区内で出土した石器・石製品は、石鍋1点、砥石4点、火打石1点がある。

293はⅡ区の溝SD005の埋土を除去した後に確認した柱穴SP216の柱痕部より出土した石鍋である。口径38.5cm、器壁厚さ0.85～1.00cmの滑石もしくは風化した蛇紋岩を石材とする。口縁部より2cm下がった箇所の高さ1.7cmの鐶を作り出したものである。内外面には原体幅約0.9cmのノミ痕が顕著に認め



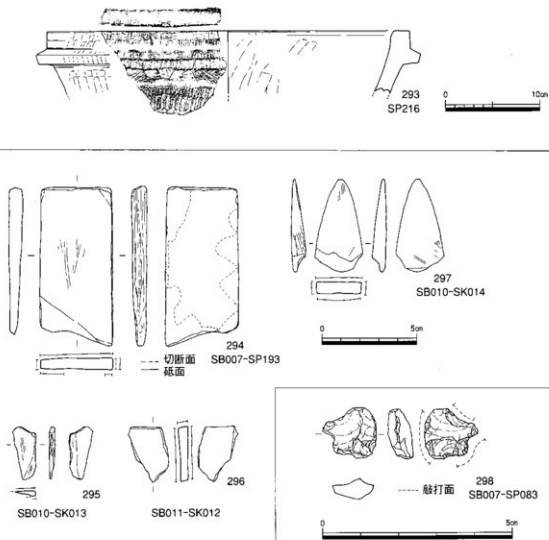
られ、内面については整形後に磨いてノミ痕を消す。

294～297は砥石である。294・295は京都産鳴滝石と推定される流紋岩を使用した刃器用仕上げ砥石である。いずれも側縁部に石鋸切断による線状痕をとどめる。296は細粒花崗岩質凝灰岩の小形砥石である。産地は明かでない。297は黒色を呈する頁岩製砥石である。一方が細く尖る形状をもつことから、手持ちの仕上げ砥石と推定される。

298は赤色チャートを石材とする火打石である。微細な不定形剥片を素材とする。図の左が素材の背面、右側が素材の主要剥離面である。図上端は打面の一部が残存し、下端には素材の蹠面が認められる。素材剥片剥取に先立ち、同一打面で2枚の不定形剥片を剥取した後に当該素材の剥片を剥取している。使用痕は主に兩個縁部に認められ、微細な階段状剥離を伴う敲打痕として観察できる。

#### (9) 金属器関連遺物

調査区内で多数の金属器類が出土している。掘立柱建物SB011を構成する柱穴の柱抜取穴SX004より4点の銅銭が出土したことは、すでに報告したが、それ以外に銅銭2枚、金メッキを施した金銅裝飾金具1点の銅製品が出土している。また、釘や毛抜きなどの鉄製日用品類も多数みられる。鉄器類につ



第24図 石器・石製品実測図 (S=1/4・1/2・1/1)

いては出土した段階で錆化が著しく、X線写真を元にして図を作成した。そのほか、輪羽口、鉄滓、銅滓、焼土などが出土している。これらは輪羽口・鉄滓がⅠ区からⅡ区北側にかけて、銅滓・焼土がⅡ区南側に多く認められる。鉄関連と銅関連についてはそれぞれ別の場所か、もしくは別の時期に生産ないし、加工が行われていた可能性が高い。

299は長さ3.3cm、厚み0.8cmの柱穴出土の金銅装飾金具である。Ⅱ区柱穴SP177より出土している。素材は青銅に鍍金したいわゆる金銅装で、平面形はし字型、断面は頂部に稜線をもつ山形である。厚みは1～1.5mmをはかる。表面は部分的だが鍍金が遺存しており、原形は全面に鍍金が施されていたものと考えられる。裏面は一部で錆化による膨れが認められるが、図の下端から1.3cmの位置に釘状の突起が遺存する。右に折れたもう一方にも突起があったものと思われ、2箇所で釘止めする構造と考えられる。側面形は下端部が揃わず、捻れた形状が観察できるが、原形を反映するかどうか、不明である。

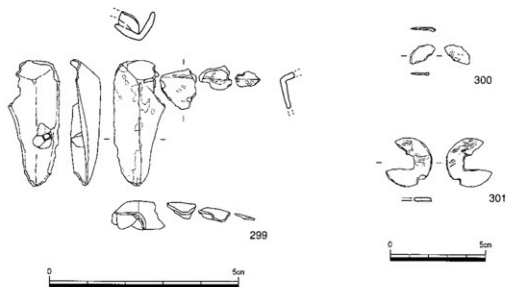
300は柱穴SP257出土の銅銭である。穿孔部縁が遺存しており、かろうじて銅銭であることが分かる。銭種は不明。一辺が強く折れ曲がる。301はSA003柱穴出土の銅銭である。遺存状態は良いが、器面に繊維系の有機物が付着しており、銭種は不明である。

302は柱穴SP199より出土した鉄製刀子である。残存長11.1cmで、うち刃部長9.1cm。図はX線で見える限り、緩やかなカーブで柄部に接続し、柄残存部に目釘穴は認められない。

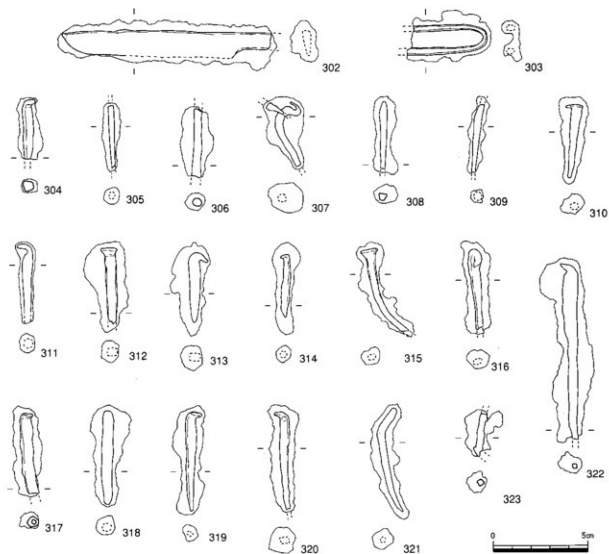
303は柱穴SP115より出土した残存長4.3cmの毛抜きである。先端部を欠損しており全長は不明。基部は緩やかにカーブを描いて折り返している。

304～322は掘立柱建物やその他の柱穴等より出土した鉄釘である。304・307・310・311・313・314・319・320は長さ3.5～5.5cmの完形もしくは完形に近い一群である。基部を一旦平坦に叩き伸ばした後、90°に折り曲げて敲打部を作出する。断面は錆化のため形状不明のものが多く、角が丸みを帯びた矩形を基本とするようである。322・318などは長さ5.5cm以上の全長が予測される鉄釘である。315・316はSB011の柱穴採取穴SX004で地鎮祭祀遺構より出土したものである。

324はSX001出土の輪羽口である。孔径2.0cmで外面に炉に挿入した痕跡が黒斑状に残り、先端部に



第25図 銅製品実測図 (S=1/2・1/1)

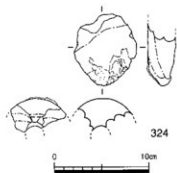


第26図 鉄製品実測図 (S=1/2)

ガラス質の粘土溶解片が貼り付く。

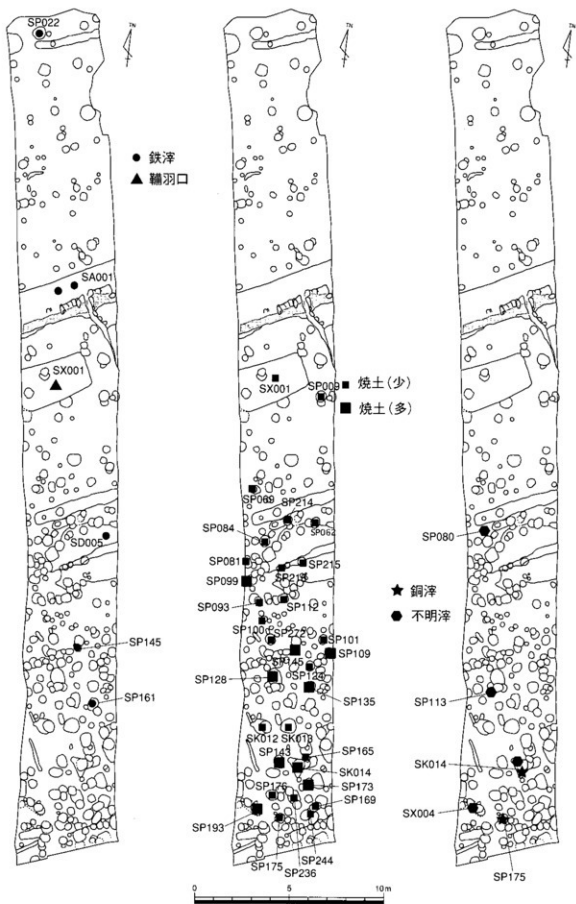
写真図版に示した325～329はⅡ区南側で出土した焼土の一部である。このうち325～327は平坦面をもつもので、表面にきめ細かな別粘土を貼り付けて仕上げている。鋳型の真土に類似するが、鋳面の痕跡は認められない。

330～336は鉄滓である。このうち330は481gの大形鉄滓で、下部に湾曲が認められることから腕状鍛冶滓と考えられる。同様に331・332・334も腕状鍛冶滓である。これらの鉄滓はⅠ区南側からⅡ区北側にかけて分布する。



第27図 鑄羽口実測図 (S=1/4)

337・338は直径1cm内外の微細な銅滓である。また339～343はいずれにも区分できない不明滓で、表面がガラス質に変化し、内部に細かな粗い気泡が認められるものである。比重は他の金属滓よりかなり軽い。これらの銅滓・不明滓はⅡ区の南側を中心に分布する。



第28図 金属器関連遺物分布図 (S=1/200)

番号	種別	出土遺構	長	幅	厚(cm)	重量(g)	形状	色調	
330	鉄滓	SA001下層	9.0	8.5	2.5	481	碗状	明黄褐10YR6/8	
331		SA001下層	6.0	5.5	1.7	111.84	碗状	明褐7.5YR5/8	
332		SA002(SPI45)	5.8	4.2	1.4	74.45	碗状	灰白2.5Y7/1	
333		SP013	6.2	4.3	1.0	65.22	不定形	明褐7.5YR5/6	
334		SB009(SPI61)	4.6	3.3	1.1	34.53	碗状	明黄褐10YR6/6	
335		SP022	3.3	2.7	1.2	19.04	不定形	黄褐10YR5/6	
336		SD005	5.1	3.2	1.3	37.3	不定形	明黄褐10YR6/8	
337		銅滓	SB007(SPI75)	1.3	1.1	0.7	2.2	不定形	灰白10YR7/1
338	SB010(SK014)		0.9	0.5	0.3	0.18	不定形	黄灰2.5Y5/1	
339	不明滓	SB010(SK014)	3.6	2.5	1.7	8.09	不定形	黒褐7.5YR3/1	
340		SP113	4.0	2.6	2.3	14.25	不定形	灰N5/	
341		SB011(SX004)	3.1	1.7	1.6	7.56	不定形	明赤7.5R3/6	
342		SP014	1.7	1.3	1.2	1.08	不定形	黒7.5Y2/1	
343		SP080		4.6	2.7	2.3	12.12	不定形	灰白5Y7/2

第2表 鉄滓・銅滓・不明滓一覧表

## 4. まとめ

今回の発掘調査により、13世紀から14世紀にかけての区画溝や掘立柱建物多数が確認された。調査範囲が南北に細長いため、東西方向の遺構の広がり不明なものが多く、建物復原等に不確定部を残しているが、現段階における遺構の分布状況の特徴と時期的変遷をここでたどることとする。

### (1) 遺構分布について

まず注目すべき点はⅠ区の区画溝SA001を介して、その北側と南側の遺構分布密度の差である。南側のⅡ区には200基以上の柱穴が密集し、大小の柱穴が切り合い関係をもつ。Ⅱ区の柱穴はその平面規模が大きいのも特徴で、大きな柱穴は直径1mを越えるものもある。一方で、現遺部を介してさらに南側のⅣ区には若干の土坑・柱穴がみられるが、特にその北半部にはまったく遺構が分布しない。柱穴が集中するⅡ区に接して、このような無遺構エリアが存在する点は、上部遺構の可能性を含めて、今後検討していく必要があるものといえる。いずれにしても、Ⅱ区の一定エリアに多数の建物が重複する状況は、遺跡存続期間における区画内建物配置について、一定の規制が存在した可能性が考えられる。

また、Ⅲ区は従来より土壘・堀跡の可能性が指摘されてきたエリアであるが、Ⅰ区遺構面より40cmほど削平されており、削平時の不整な凹凸が認められたにすぎず、柱穴等の残欠すら見いだせなかった。本来、柱穴が存在しなかった可能性は高いが、とはいえ土壘等を想定するのでも現時点では材料が少ない。SD001は柱穴等の遺構の北限に近いので、もし土壘が存在したのであれば内側土端の溝になりうるが、これも根拠が弱い。もっとも、堀の痕跡も見られなかったので、調査区北端の攪乱ライン以北に堀を考えなければならない、という点については、今回明らかになった。

### (2) 出土土器の時間的变化

遺跡の変遷を検討する上でポイントとなる土器資料は、区画溝SA001の下層(石垣裏込含む)・上層、およびSX001、さらに土器廃棄土坑SX005、掘立柱建物SB011抜取後の祭祀遺構SX004などで

ある。

SA001は下層の土師質土器杯(80など)と上層の同器種(113)において、口径の縮小、底部平坦化・口縁部直線化がみられる。SA001と同時に埋められた可能性が高い方形土坑SX001においてもSA001上層と同様の土器119がみられる。このことから上記変化を時間的な変化と考える。また、SA001下層では84・85にみられるように底部が平坦で、口径が大きい割に口縁部が短い一群がある。これらを土器一括投棄資料のSX005の資料と比較すると、上記一群に対応する土器は底部の平坦化が進行していない143・150などがろうじて抽出できるにすぎず、多くは口縁部が長く、体部下端が丸く整形される杯が圧倒的に多い。一方でSA001下層にも178のような体部下端が丸いものも含まれることから、SA001の下層(最下層含む)時間幅のうち、古相がSX005に対応するものと判断できる。以上により、SX005を指標とする土器群、SA001下層のうちSX005に特徴的な土器を差し引いた土器群、SA001上層及びSX001の土器群に古から新への時間的推移を認め、大堀1期、大堀2期、大堀3期に区分する。

土師質土器小皿は1期と2期で大きな違いはないが、2期には口径が7cm以下の小さいものが出現する。また3期には口縁部の立ち上がりが極めて短い121・122などが認められる。土師質土器皿(53～58)は3期に新たに出現する器種である。

他地域の土器編年(佐藤2000)を援用すると、1期は13世紀前半、2期は13世紀後半、3期は14世紀前半に概ね対応するものと考えられる。

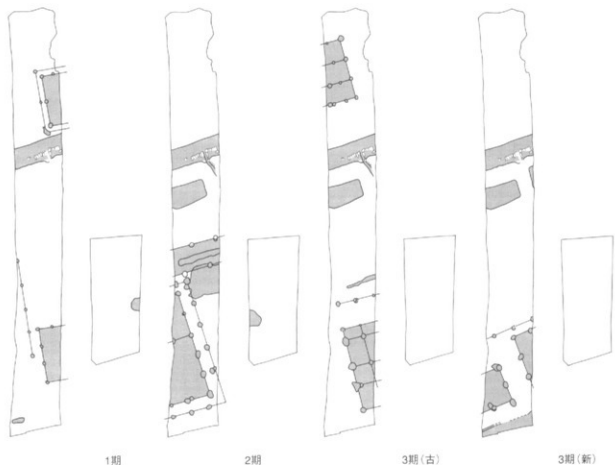
### (3) 検出遺構の変遷

まず1期の遺構は、区画溝SA001の最下層もしくは下層の初期段階がこれに対応する。建物遺構はSA001直ぐ北のSB002、Ⅱ区のSB008・SA004がある。Ⅱ区南端には土器廃棄土坑SX005がSB008と軸線をそろえて掘削される。Ⅳ区では土坑SK402の埋没はこの時期に始まるものと考えられる。

この段階の建物柱穴は直径が40cmほどのものが多く、SX005北側付近には建物が復元できない同様の大きさの柱穴も多いことから、SB008西側にも建物が存在した可能性がある。また、次期のSD005に切られる柱穴もあったことから、SD005と重複してSB008の北側に建物が存在した可能性もある。このことから、集落が開始された1期の段階ですでに建物が本格的に配置されていたことが窺われる。また、柱穴規模がさほど大きくない点は使用柱の抜き取り転用が限られたものであったことを推定させる。

2期は調査区内で全面的に遺構を復元することができた時期である。SA001の下層が機能し、この段階で直ぐ南の方形土坑SX001も掘開されていた可能性が高い。Ⅱ区には南北10mを越える大形建物SB007が存在し、それに附属するSA005・SA006およびSD004がある。SD005は出土遺物の大半がこの時期に所属する。Ⅳ区ではSK401出土土器がこの時期まで存続する。

3期は建物SB010・楕円SA003の一群と、建物SB009・SB011・楕円SA002の一群がこの時期に該当するが、両者は平面的に重複する関係にある。このうち、SB011を構成する柱穴採取穴SX004出土土器は、3期においても最も新相を示す土師質土器皿が出現している。また、SA001上層やSX001は最終埋没層(人為的埋土)にこの時期の土器が含まれることから、SB011(SX004)の地鎮祭祀を含めて調査範囲における最終廃絶時の遺構と見ることができる。したがって、SB011やSB009に先行してSB010の一群が存在したものと考えられ、これを3期(古)(新)に区分する。3期(古)にはSA001より北側のSB001が含まれる。また、3期(新)にはSK008の最終埋没が見られることから、SX001とSK008が同様な機能を有してSA001埋没時に同時に埋めている可能性が高い。



第29図 大堰城跡平成16年度調査区遺構変遷図

#### (4) 特記すべき出土遺物

出土遺物は多くが日常雑器類であったが、一部で金属器生産に関連する遺物が出土した。このうち鉄滓・輪羽口はⅡ区の北側に分布の中心があり、銅滓・不明滓・焼土についてはⅡ区南側にみられる。また、Ⅱ区南側には、砥石・金銅装飾金具などが分布する。遺構として鍛冶炉や溶解炉あるいは铸造遺構などを確認できたわけではないが、Ⅱ区南側を中心に銅製品の铸造、Ⅱ区北側を中心に鉄鍛冶が行われた可能性が高いといえる。県内の同一時期の遺跡では普遍的にこのような鍛冶・铸造関連遺物が出土しており、この時期に一般的な現象である。

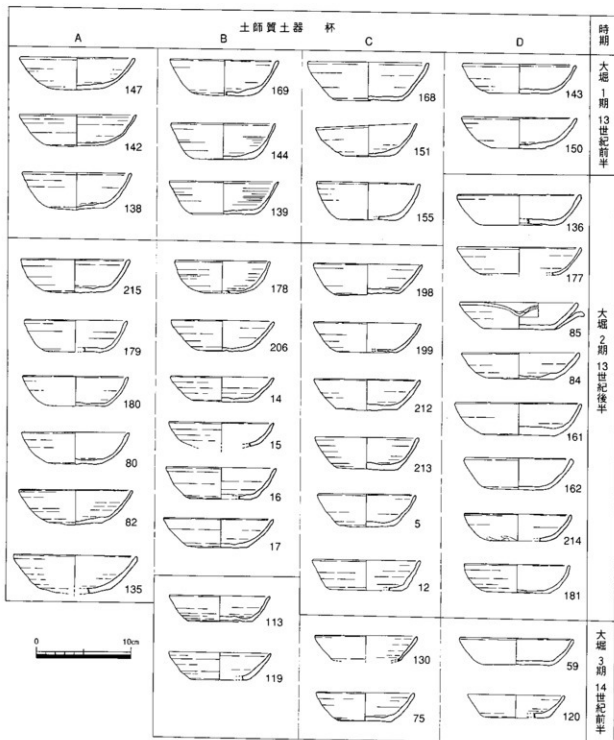
金銅装飾金具は用途は不明だが、接地面は平坦ではなく、隅がせり上がった板状のものが想定できる。調べた限りでは類例はない。また、砥石は少なくとも1つは京都産鳴滝石である。県内では浜ノ町遺跡や空港跡地遺跡で類例があり、国内で最も安定供給がなされた砥石とされる。

また、出土土器のうち陶磁器については青磁碗7点、白磁皿3点、常滑系陶器大甕1点、亀山系須恵器甕2点、十瓶山系須恵器5点、東播系須恵器捏鉢1点がある。備前系須恵器（備前焼）が含まれていないのは、時期的にみて当地域で備前系須恵器が多く搬入されるのが14世紀後半であることから、当遺跡が14世紀後半以前に廃絶（中断）したことを示すものといえる。

(5)香川県下の古代～中世の居館跡（囲郭集落）について

居住域を区画溝で囲まれた中世の宅地を通常「居館」と呼んでいる。このような居館は、古代前半段階においても存在し、条里地割に伴う溝が居住域を取り囲む形状を呈する事例が多い。しかし、古代前半段階ではこのような遺跡は通常「居館」とは呼ばない。

丸亀市郡家原遺跡（山下1993）では、8世紀前半に所属する集落が確認された。ここでは、調査範囲が条里地割の5つの坪に溝によって仕切られ、さらに各坪の内部にそれぞれ8世紀代の掘立柱建物が5～7棟ずつ配置され、等質的な宅地が隣接して存在する様相が明らかとなった。この状況は平野に条



第30図 大堀城跡平成16年度調査区 土師質土器変遷図 (S=1/4)



里地割が施工された初期の段階の計画的な宅地配置の例として注目できるが、同じ範囲で9世紀代の掘立柱建物はすでに条里地割と異なった方向をもつものが出現するなど、早くも律令体制の変容が窺われる。

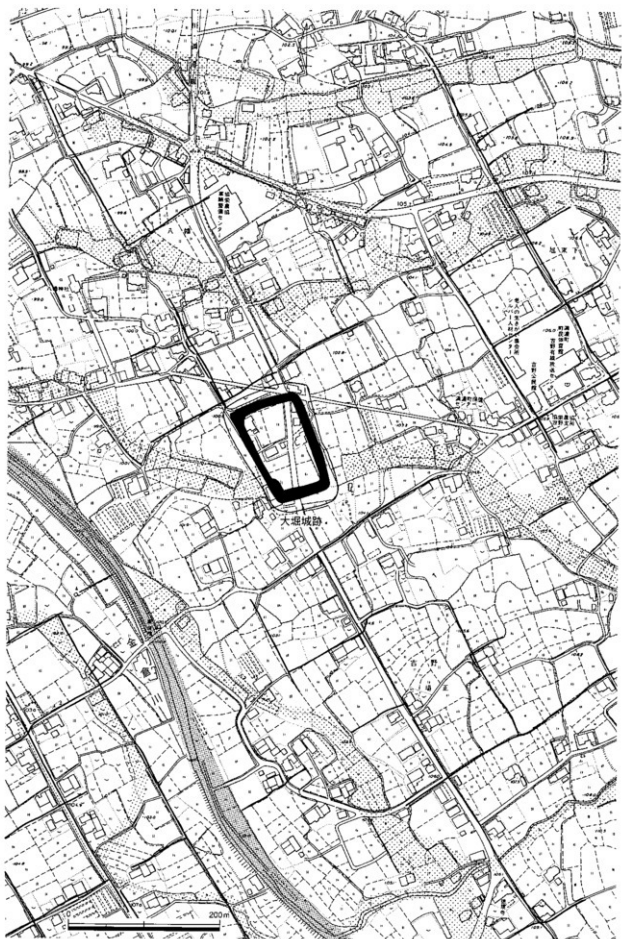
高松市香西町の西打遺跡（木下2000、山下・信里2002）では、11～12世紀段階、13～14世紀段階の溝で囲まれた屋敷地が存在する。いずれも周辺条里型地割に合致して配置されており、条里型宅地である。ただし、広大な水田域（畑地含む）内に1箇所の宅地があり、そこが用水路ではない区画溝によって仕切られていることから、一般的な「居館」に通じる。

土師質土器 小皿	時期	所属遺構
	大塚1期 13世紀前半	SX005 SA001 最下層 SK402
	大塚2期 13世紀後半	SB007 SB008 SA001 下層 SK401 SB002 SK010
	大塚3期 14世紀前半	SB009-SB011 (SX004) SA002 SB010-SA003 SA001 下層 SX001 SB001 SK008

一方、普通寺市永井遺跡（波部1990）では13世紀ごろの集落がある。東西150mほどのエリアに、掘立柱建物4～6棟で構成される単位が3単位並列する。先の郡家原遺跡の質的宅地の配列に共通する分布状況である。ただし、永井遺跡の場合は周辺条里型地割とは方向性は同じでも、少なくとも南北方向の坪界線と合致しない。古代から施工された方格地割の規制を逸脱しているものである。

従来の条里地割を逸脱したものとしては、高松市空港跡地遺跡（佐藤2000）の13世紀から14世紀前半期集落がある。東西130m、南北110のエリアに用水路と異なる溝が走り、中央やや北寄りに東西35m、南北50mの宅地エリアを設けたもので、外区画の南北溝は周辺条里型地割の坪境線に一致しない。つまり、条里地割に基づく用水路から一層逸脱する形で区画溝が設定される状況である。

空港跡地遺跡の14世紀後半以後の区画溝も同じく地割りに合致しない。また、ここでは、溝が複数条走り、一部クランク状に屈曲する形状を呈しており、城館という「虎口」状の様相を呈する。同様な例は高瀬町大門遺跡（野中1987）でも屋敷地の南東隅に「虎口」状部分が見られる。また高松市権紙町八幡遺跡（信里2004）では寺院を取り



第31図 大堀城跡周辺の微地形と条里型地割 (S=1/800)

込んで堀で囲まれた城館が復原されている。ここでは外堀のさらに外に、あたかも堀と無関係のごとく条里地割に伴う水路が確認されており、条里地割もしくは周辺水利と城館の堀とが独立して設定されている事例である。

このように、古代から中世の宅地・屋敷地・居館・城館とされた遺跡では、条里地割との関係、宅地の単位・密集度、水利との関係性からみて次のように整理できる。

- 8・9世紀 条里に連動して密集・単独で宅地の配置がある。(郡家原)
- 13世紀ごろ 新田開発地は新設条里に沿って宅地・屋敷地が設定される(西打)  
旧来の開発地では条里から逸脱する宅地・屋敷地が設定される。(空港跡地・永井)
- 14世紀後半ごろ 囲郭施設が発達し、城館状の宅地がみられる。(空港跡地・八幡・大門)

#### (6)大堀城跡の「居館」と「城館」

大堀城跡は堀・土塁が現存する中讃地域を代表する平地式中世城館とされている。現存する堀・土塁の規模は、推定位置を含めて最大で南北約170m、東西110mの範囲である。堀跡は幅8～10mで、周辺田地との比高差は40～50cm。北辺を除く3辺に良好にその痕跡をとどめる。南辺の県道西側には現存する出水があり、周辺田地への水源として今でも使用されている。土塁は最もよく残っている南土塁で、高さ1.5m、幅16～18mを測る。東西土塁はいずれも高さ0.5～0.6m、幅4～5mで、西土塁は現在畦道として利用されている。北側はⅢ区が所在する田地が南側より40cmほど低く、堀跡とも考えられるが、西や北東の堀跡の状況とスムーズには繋がらないことから、一部改変されているものとされてきた。また、今回調査のⅣ区部分は周辺より1m程度高く帯状となっており、香川県中世城館跡詳細分布調査報告(香川県中世城館跡詳細分布調査事業事務局 2003)では、堀による複郭式である可能性が指摘されている。

香川県文書館で保管されている讃岐国女木島岸本家文書中に「那珂郡吉野上村場所免内王堀大手佐古外内共田地絵図」がある。江戸時代に作成されたものとされており、野中寛文氏の詳細な報告がある(野中 1999)。

今回の調査では、土塁で囲まれた内部にさらに石垣を伴う区画溝が確認された。区画溝内部の一定範囲に13世紀から14世紀前半の多数の建物が分布し、多くが重複することから、比較的長期にわたる存続期間を想定すべきである。従来より認められていた土塁や堀が、同時期かどうか確認する材料は見いだせなかったが、前節の各時期の資料のうち、今回の大堀城跡資料に状況が似ているものは、空港跡地遺跡の13世紀ごろの居館であろう。内区画溝の規模は、概ね大堀城跡の石垣を伴う区画溝に一致する。また、内区画の大きさも今回調査を行った区画溝の南の範囲に一致する。問題は、空港跡地の外区画溝が幅3.5～4mの規模に対して、大堀城跡の堀は8～10mである。もっとも、八幡や空港跡地の14世紀後半代の区画溝では幅8～10mの規模の溝・堀が確認されていることから、大堀城跡の現存堀跡も、当初より外区画溝・堀として存在した可能性は否定できない。

一方、城館研究の立場からは大堀城跡は土塁の規模や形状から、16世紀ごろの織豊期の平地式城館である可能性が指摘されている。また、先の絵図に描かれた堀の外側に丁寧な石垣が描かれていることから、当初より貯水を目的とした施設の可能性も考えられる点である。これは、歴史地理学の立場からも堀南側に現存する出水が周辺水利に重要な役割を果たしていた可能性が指摘されている。

以上のように、現段階では現存する堀・土塁部分が今回調査を行った13～14世紀の居館に伴うもの

か、否か、いずれとも考えられる状況にある。今後の発掘調査等によって、特に堀・土塁のデータが得られる必要がある。

中世前半段階の堀が江戸時代まで継続した可能性がある事例として、高松市伏石町のキモンドー遺跡がある。ここでは、方一町の敷地をもつ方形館と言われる「佐藤城」の南東隅部分の発掘調査により、南北方向および東西方向に延びる幅4mほどの堀跡が明らかとなった。堀跡の両岸には2段ほどの石垣が残存する。佐藤城は文献上の佐藤氏の居館と考えられ、築城は14～15世紀にさかのぼる可能性があるが、堀跡の調査でも、居城築城当初から石垣が築かれたかどうかは、定かになっていない。

大堀城跡においても、江戸期において堀や土塁が改変を経ながら継続していることが、絵図から判明することから、今後の堀跡の調査においても、判断は困難を伴う可能性が高い。土塁や堀のみの調査ではなく、内部の他の場所に14世紀後半以後の宅地部分が存在しないかどうか、などを含めて、総合的に遺跡内容を検討する必要があるものといえる。

## 参考文献

- 梅原 末治 1927『銅鐸の研究』木耳社
- 大久保 徹也 1997『吉野下秀石遺跡の発掘調査』『国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成8年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 岡 敦彦・平田 友彦 1996『櫻林清源寺1号墳・櫻林清源寺2号墳・天神寺塚7号墳』溝瀆町教育委員会  
香川県中世城館跡詳細分布調査事業事務局
- 片桐 節子 2003『大堀城跡』『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』香川県教育委員会
- 片桐 節子 1997『町代遺跡・町代2号墳』溝瀆町教育委員会
- 片桐 節子 1994『大堀城跡』『香川県埋蔵文化財調査年報 平成5年度』香川県教育委員会
- 北山 健一郎 1993『弘安寺跡』『香川県埋蔵文化財調査年報 平成4年度』
- 木下 晴一 2000『西打遺跡Ⅰ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 2003『いにしへの讃岐 第39号』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤 竜馬 2000『高松平野と周辺地域における中世土器の編年』『空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 佐藤 竜馬 2000『空港跡地遺跡跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 中西 昇 1988『県道府中・琴南線改良工事に伴う備中地遺跡発掘調査報告書一付・中寺庵寺確認調査概報一』琴南町教育委員会
- 野中 寛文 1999『田地絵図は館跡絵図』『香川県立文書館紀要 第3号』香川県立文書館
- 野中 寛文 1987『大門遺跡』『大門遺跡・矢ノ岡遺跡・利生寺遺跡・利生寺古墳・北条遺跡・追免遺跡』香川県教育委員会
- 信里 芳紀 2001『羽間遺跡』『国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成12年度』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 信里 芳紀 2004『八幡遺跡』『中岡東井遺跡・正箱遺跡・八幡遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団
- 真鍋 昌宏 2004『買田岡下遺跡』
- 溝瀆町 1975『溝瀆町史』溝瀆町
- 森下 英治 1995『大堀城跡』『香川県埋蔵文化財調査年報 平成6年度』香川県教育委員会
- 山下 平重 1993『郡家原遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団
- 山下 平重・信里 芳紀 2002『西打遺跡Ⅱ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 山本 信夫 2000『太宰府条坊跡ⅤⅥ -陶磁器分類編-』太宰府市教育委員会
- 横田 賢次郎・森田 勉 1978『太宰府出土の輸入中国陶磁器について』『九州歴史資料館研究論集4』
- 渡部 明夫 1990『水井遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

番号	方孔 図式	遺構名	層位・土 層番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底面調整	出土	傾度	色	調	備考
1		SB001	SP004	土師質土器坏	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
2		SB001	SP004	龟山系須恵器	-	-	-	滑り目付き 回転ナデ	回転ナデ	-	赤(砂粒なし)	悪悪	灰黄	5YR5/1	
3		SB001	SP004	土師質土器小皿	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
4		SB002	SP009	土師質土器小皿	7.7	1.1	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	赤	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
5		SB010	SK013	土師質土器坏	10.2	3.5	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
6		SB010	SP128	土師質土器坏	14.1	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
7	27	SB010	SK014	十亀山系須恵器	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(1mm以下の砂粒少量を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
8		SB010	SK013	土師質土器小皿	7.3	1.1	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
9		SB010	SK014	中国産白磁皿	12.5	-	-	-	-	-	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白 粉白 灰	5YR/1 焼 7.5GY8/1	
10		SB010	SK013	土師質土器碗	-	-	5.6	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白 灰	7.5YR7/3	
11		SB010	SK014	土師質土器蓋	直径 2.3	-	-	-	-	-	赤(0.5~3mmの砂粒多く含む)	悪悪	橙	7.5YR7/6	
12		SA003	SP093	土師質土器坏	11.2	3.1	7.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り (厚縁)	赤(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	SP090を切る ことが判明
13		SB007	SP112	土師質土器坏	10.7	3.2	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
14		SB007	SX003	土師質土器坏	10.7	2.6	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや赤(2mm以下の砂粒及び70mm以下の白色粘土塊を含む)	良好	浅黄	5YR8/2	
15		SB007	SP142	土師質土器坏	11.0	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(0.5mm以下の砂粒少量を含む)	良好	明灰白	7.5YR7/1	
16		SB007	SP135	土師質土器坏	11.5	3.4	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
17		SB007	SX003	土師質土器坏	11.6	3.1	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.5mm以下の砂粒わずかに含む)	良好	明灰白	7.5YR7/1	
18		SB007	SP083	相模原瓦器輪	14.2	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(1mm以下の砂粒わずかに含む)	悪悪	灰	N4/	
19		SB007	SP112	相模原瓦器輪	15.0	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤、精良	悪悪	灰	N5/	断面による凹 みがあるや強い
20		SB007	SP172	土師質土器小皿	6.0	0.9	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄	2.5Y8/3	
21		SB007	SP099	土師質土器小皿	6.8	1.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
22		SB007	SP175	土師質土器小皿	6.2	1.1	4.8	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	やや赤(1mm以下の砂粒を多く含む。2.5mm以下の白色粘土塊を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
23		SB007	SP172	土師質土器小皿	7.0	1.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.5~1.5mmの砂粒、2mm程度の白色粘土塊を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
24		SB007	SP112	土師質土器小皿	7.0	1.0	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや赤(2mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
25		SB007	SP083	土師質土器小皿	7.2	0.9	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
26		SB007	SP083	土師質土器小皿	7.2	1.1	6.3	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り 後ナデ	赤(1mm以下の砂粒少量を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
27		SB007	SP107	土師質土器小皿	7.8	0.9	7.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや赤(2mm以下の砂粒を多く含む。1.5mm以下の白色粘土塊を含む)	良好	橙	7.5YR7/6	
28		SB007	SP112	土師質土器小皿	7.4	0.7	6.2	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り 後ナデ	赤(1mm以下の砂粒少量を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
29		SB007	SP159	土師質土器小皿	8.6	1.2	7.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤、精良(0.5mm以下の砂粒わずかに含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
30		SB007	SP121	土師質土器小皿	7.6	1.4	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄	7.5YR8/2	
31		SB007	SP083	土師質土器小皿	7.9	1.3	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや赤(2mm以下の砂粒を含む)	やや赤	灰白	5YR7/4	外面ほぼ全面 黒変
32		SB007	SP142	土師質土器小皿	7.8	1.7	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.5mm以下の砂粒3mm以下の白色粘土塊を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	片割れ一面に黒 変あり、内面に黒 変は付かずあり
33		SB007	SP193	須恵器輪	-	-	4.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 厚縁付台	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	N7/	
34		SB007	SP175	土師質土器碗	-	-	4.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 厚縁付台	やや赤(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	隅り付け高台
35		SA005	SP084	土師質土器小皿	8.0	1.1	7.1	回転ナデ (厚縁)	回転ナデ (厚縁)	ヘラ切り (厚縁)	赤(2mm以下の砂粒を含む)	良	浅黄橙	7.5YR8/3	
36		SA005	SP062	土師質土器小皿	7.2	0.8	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄	5YR8/3	
37		SA005	SP062	土師質土器小皿	7.0	0.7	6.0	回転ナデ (厚縁)	回転ナデ (厚縁)	ヘラ切り (厚縁)	やや赤(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄	5YR8/4	
38		SB007	SP256	中国産須恵器蓋	-	-	4.2	-	-	-	赤、精良	悪悪	浅黄	7.5Y7/3	
39		SB007	SP159	土師質土器厚縁	-	-	-	-	-	-	赤(1~3mmの砂粒少量を含む)	悪悪	灰白	7.5YR8/2	
40		SD004		須恵器坏	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(0.2mm以下の砂粒を含む)	良好	明オリーブ 灰	2.5GY7/1	
41		SD004		土師質土器小皿	7.9	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 厚縁ナデ厚 縁	赤(2.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄	2.5Y8/3	
42		SD004		土師質土器小皿	6.4	1.0	5.0	回転ナデ	回転ナデ	赤切り後 ナデ	赤(3mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
43		SD004		土師質土器小皿	6.4	1.0	4.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
44		SD004		黒色土器輪	13.6	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(2mm以下の砂粒を含む)	良好	黒	10YR8/1	

第3表 大堰城跡平成16年度調査区出土遺物観察表(1)

番号	写真 写真 写真	遺構名	曹官・柱 六脚	器 種	口径	器高	口径	表面調整	内面調整	底面調整	胎土	焼成	色調	備考	
45	SB008	SP165	土師質土器小皿	8.0	1.1	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(0.5~1mmの砂粒を含む。1mm程度の白色粘土粒を含む)	良好	灰白	7.5YR7/4		
46	SA004	SP144	土師質土器小皿	6.9	1.4	4.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4		
47	SA004	SP144	土師質土器小皿	7.0	1.1	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	内外面に赤色顔料残	
48	SA004	SP144	土師質土器小皿	6.9	1.4	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(0.5~2mmの砂粒多く含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3		
53	22	SB011	SX004	土師質土器皿	9.4	1.2	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒。白色粘土。赤色粘土を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.5
54	22	SB011	SX004	土師質土器皿	9.1	1.7	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや黄(白色粘土を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.4
55	22	SB011	SX004	土師質土器皿	8.8	1.7	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや黄(白色粘土を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	土師器 No.1
56	22	SB011	SX004	土師質土器皿	8.9	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.6
57	22	SB011	SX004	土師質土器皿	9.4	1.9	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.2
58	22	SB011	SX004	土師質土器皿	8.3	1.7	3.6	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕	やや黄(0.3~1mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	土師器 No.3
59	SB011	SK012	土師質土器環	11.7	3.0	7.1	回転ナデ	不定方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(2mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	10YR8/2		
60	SB011	SP111	土師質土器小皿	5.6	1.0	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	内面に赤黄あり	
61	SB011	SK012	土師質土器小皿	7.8	1.0	6.0	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3		
62	SB011	SP143	土師質土器小皿	6.1	0.9	4.3	回転ナデ	不定方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1~2mm程度。3mmの砂粒少量含む)	良好	粥状	10YR5/1		
63	SB011	SP143	土師質土器小皿	6.8	1.2	4.9	回転ナデ	不定方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(3mmの砂粒少量含む)	良好	灰黄	7.5YR8/3		
64	26	SB011	SP111	東條系赤黄器鉢	28.0	-	-	回転ナデ	回転ナデ	不備ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	口縁部外面に黒黄あり
65	SB011	SP111	土師質土器鉢	-	-	4.8	不定方向ナデ	ナデ	不定方向ナデ	赤(1mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	10YR8/1	取り付け高台	
66	SB009	SP109	黒色土器鉢	16.3	3.8	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(0.5~3mmの砂粒多く含む)	良好	黒	2.3Y2/1		
67	SB009	SP161	土師質土器小皿	16.0	-	-	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	黒	7.5YR6/1		
68	SB009	SP225	土師質土器小皿	6.8	1.0	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや黄(0.3~1mmの砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR7/4		
69	SB009	SP225	土師質土器小皿	7.0	1.1	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR7/6		
70	SB009	SP109	土師質土器小皿	7.2	1.1	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(2mm以下の砂粒多量含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	内外面に黒黄あり	
71	SB009	SP161	土師質土器小皿	7.1	1.3	5.2	回転ナデ	ナデ。指押えあり	回転ナデ	赤(1mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	7.5YR7/3		
72	SB009	SP157	土師質土器小皿	7.8	1.1	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4		
73	SB009	SP161	土師質土器小皿	7.0	1.4	4.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰黄	7.5YR8/2		
74	SB009	SP225	土師質土器小皿	直径3.0	-	-	-	-	-	赤(5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4		
75	SA002	SP145	土師質土器杯	10.0	3.0	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	口縁部内外面に黒黄あり	
76	SB006	SP141	土師質土器小皿	7.2	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	摩滅	やや黄(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2		
77	SB006	SP141	土師質土器小皿	6.9	1.1	5.6	-	-	-	やや黄(0.5~3mmの砂粒を含む)	軟	灰白	10YR7/4		
78	SA001	最下層	黒色土器鉢	13.9	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(3mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1		
79	SA001	最下層	黒色土器鉢	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	粥状	10YR5/1		
80	SA001	下層	土師質土器杯	11.2	3.3	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒。黒色赤色を含む)	良好	灰白	10YR8/1		
81	SA001	下層	土師質土器杯	11.3	3.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄	2.5YR/3		
82	SA001	下層	土師質土器杯	11.8	3.7	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3		
83	SA001	下層	土師質土器杯	12.5	3.3	7.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(2mm以下の砂粒。黒色赤色を含む)	良好	灰白	10YR8/2		
84	SA002	下層	土師質土器杯	12.3	2.8	7.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	内外面に赤色顔料残	
85	SA001	下層	土師質土器杯	12.3	2.8	7.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	黄(0.5~4mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4		
86	SA001	下層	土師質土器小皿	7.3	1.3	5.9	回転ナデ	回転ナデ	不明	やや黄(3mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	2.5YR/2		
87	SA001	下層	土師質土器小皿	7.7	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2		
88	SA001	下層	土師質土器小皿	7.8	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(1mmの砂粒。白色粘土を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3		
89	SA001	下層	土師質土器小皿	7.5	1.5	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	赤(3mmの砂粒。白色粘土粒。赤色粘土を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4		
90	SA001	下層	土師質土器小皿	7.5	1.1	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや黄(0.3~3mmの砂粒。赤色赤色を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3		
91	SA001	下層	土師質土器鉢	11.2	3.7	3.6	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(4mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	取り付け高台		
92	SA001	下層	土師質土器鉢	-	-	4.3	回転ナデ	回転ナデ	-	赤(2mm以下の砂粒少量含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	取り付け高台	

第4表 大堀城跡平成16年度調査区出土遺物観察表(2)

番号	発掘 位置	遺構名	層位・柱 番号	器 種	口徑	高さ	直径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色	語	備考
93	SA001	下層		須恵器碗	11.6	4.7	6.3	回転ナデ	不整方向ナデ	ヘラ切り	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	肌織	灰白	2.5YR/1	貼り付け高台
94	SA001	下層		須恵器碗	12.7	4.1	7.0	回転ナデ	不整方向ナデ	-	密(1mm以下の砂粒含む)	肌織	灰白	N7/	高台がつくものと思われる
95	SA002	下層		須恵器碗	-	-	10.1	回転ナデ	回転ナデ	-	密(1mm以下の砂粒含む)	肌織	灰	N4/	
96	25 SA001	下層		中国産龍泉窯系青磁碗	10.1	4.3	3.5	-	-	削出高台	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰	10YR/3	
97	25 SA001	下層		中国産龍泉窯系青磁碗	-	-	4.9	-	-	削出高台	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰 赤褐色 赤	5Y6/1 軸 10Y5/2	
98	SA001	下層		土師質土器片断	27.1	-	-	-	-	-	やや密	良好	灰白	7.5YR/3	
99	SA001	下層		須恵器鉢鉢	-	-	-	-	-	-	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	2.5YR/1	
100	SA001	下層		土師質土器片断	17.4	-	-	-	-	-	やや密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰黄	2.5Y7/2	
101	SA001	下層		土師質土器片断	16.5	-	-	-	-	-	やや密(0.5-4mmの砂粒、赤色粒含む)	良好	にぶい 黄褐色	10YR5/3	外面に薬付層
102	SA001	下層		土師質土器片断	20.0	-	-	-	-	-	やや密(1-5mmの砂粒含む)	良好	にぶい 黄褐色	10YR7/4	
103	SA001	下層		土師質土器片断	19.6	-	-	-	-	-	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	黄褐色	10YR6/4	
104	SA001	下層		土師質土器片断	21.1	-	-	-	-	-	やや密(0.5-2mmの砂粒含む、0.5-1mmの赤色粒含む)	良好	黄褐色	5YR6/3	
105	SA001	下層		土師質土器片断	直径 2.1	-	-	回転ナデ	-	-	やや密	良	にぶい 黄褐色	7.5YR7/4	
106	SA001	石原遺跡 土中		十嵐山系須恵器片断	-	-	-	叩き後ナデ	ナデ	ナデ	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	N7/0	
107	27 SA001	石原遺跡 土中		十嵐山系須恵器片断	23.0	7.2	17.4	回転ナデ、非 持チナズリ	回転ナデ	-	やや密(2mm以下の砂粒含む)	肌織	灰白	10YR8/1	
108	SA001	石原遺跡 土中		十嵐山系須恵器片断	-	-	17.3	格子目明き	ナデ、摩 滅	-	密	肌織	灰白	10YR8/1	
109	SA001	石原遺跡 土中		土師質土器片断	48.6	-	-	-	-	-	やや密(0.6mm以下の砂粒少量含む)	良好	にぶい 黄褐色	7.5YR5/4	
110	SA001	石原遺跡 土中		土師質土器片断	19.8	-	-	-	-	-	密(2.5mm以下の砂粒含む)	良好	黄褐色	2.5YR7/5	
111	SA001	石原遺跡 土中		土師質土器片断	24.2	-	-	-	-	-	密(3mm以下の砂粒少量含む)	良好	にぶい 黄褐色	10YR6/3	
112	SA001	石原遺跡 土中		須恵器鉢	-	-	9.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2mm以下の砂粒少量含む)	不良	灰白	N8/0	
113	SA001	上層		土師質土器片断	10.5	2.8	6.8	-	-	ヘラ切り	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR6/2	
114	SA001	上層		十嵐山系須恵器片断	-	-	-	叩き	未調整	-	密(1mm以下の砂粒含む)	肌織	灰	N5/0	工具痕あり
115	SA001	上層		亀山系須恵器片断	-	-	-	格子目明き	-	-	密(0.5-2mmの砂粒含む)	良好	灰黄	10YR4/1	
116	SD003	土師質土器小皿		6.0	1.2	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	黄褐色	10YR3/2		
117	SD003	土師質土器小皿		8.1	1.1	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.3-2mmの砂粒含む)	良好	黄褐色	5YR6/6		
118	SD003	土師質土器片断		-	-	-	摩滅	摩滅	-	-	密(4mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	10YR8/2	
119	SX001	土師質土器片断		10.7	2.9	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 敷状圧痕	密(1mm以下の砂粒、白色粒少量含む)	良好	黄褐色	5YR6/3		
120	SX001	土師質土器片断		10.0	2.4	7.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	密(2mm以下の砂粒少量含む)	良好	黄褐色	10YR6/3		
121	SX001	土師質土器小皿		7.6	1.2	6.4	回転ナデ	回転ナデ	-	密(0.5-2mmの砂粒含む)	良好	黄褐色	2.5YR/3		
122	SX001	土師質土器小皿		6.3	0.9	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(0.5-2mmの砂粒と赤色粒含む)	良好	灰白	2.5YR/2		
123	SX001	須恵器鉢		-	-	-	-	-	-	-	密(0.5-1mmの砂粒含む)	良好	灰白	N7/0	
124	SX001	須恵器鉢		-	-	4.6	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(1-3mmの砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	貼り付け高台	
125	SX001	土師質土器片断		-	-	-	-	-	-	-	密(0.5-2mmの砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
126	26 SX001	常滑系陶器大甕		-	-	-	-	-	-	-	密(0.5-2mmの砂粒わずかに含む)	良	灰 赤 赤褐色 赤	2.5YR/3 軸 7.5Y/3	底面に内面に有 機油、砂粒等
127	SX001	須恵器鉢鉢		27.7	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	-	密(5mm以下の砂粒含む)	肌織	灰白	10YR8/1	
128	SX001	須恵器鉢		-	-	9.4	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナズリ 後回転ナデ	密(2mm以下の砂粒少量含む)	肌織	灰白	N8/0	
129	SX001	須恵器鉢		-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	-	密(0.5-1mmの砂粒含む)	良好	灰白	5Y8/1	
130	SK008	土師質土器片断		10.7	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	-	やや密(0.3-2mmの砂粒、赤色粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
131	SK008	土師質土器小皿		7.7	1.3	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	黄褐色	2.5YR/3		
132	SK008	土師質土器小皿		7.3	1.1	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.3-1mm以下の砂粒、赤色粒含む)	良好	灰白	10YR8/2		
133	SK008	土師質土器小皿		6.5	1.0	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 敷状圧痕	密(0.3-1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	2.5YR/3	内面に褐色付 塗物	
134	SK008	土師質土器片断		-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	-	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
135	SK010	土師質土器片断		12.9	-	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ (摩滅)	-	やや密(0.5mm以下の砂粒を少量含む)	良好	灰白	10YR8/1	
136	SK010	土師質土器片断		12.7	3.1	8.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 敷状圧痕	密(0.5-2mmの砂粒、3-4mmの白 色粒少量含む)	良好	灰白	2.5YR/2		

第5表 大堀城跡平成16年度調査区出土遺物観察表(3)

番号	写真 図版	遺構名 番付・柱 穴番号	器 種	口徑	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎 土	焼成 色	調 備	備 考
137	SX005		土師質土器環	11.6	3.7	6.4	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4
138	SX005		土師質土器環	11.3	3.9	6.4	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(0.5~3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい	7.5YR7/3
139	SX005		土師質土器環	11.4	3.4	6.6	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	やや厚(0.3~3mmの砂粒、赤色粒を含む)	不良	浅黄橙	7.5YR8/3
140	SX005		土師質土器環	11.1	3.5	7.2	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後ナテ	厚(1mm以下の砂粒を含む、2mm以下の白粘土結核を含む)	良好	にぶい	7.5YR7/4
141	SX005		土師質土器環	11.1	3.6	6.6	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	やや厚(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4
142	SX005		土師質土器環	12.1	3.3	6.3	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(3mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2
143	SX005		土師質土器環	11.8	3.0	6.6	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(0.5~2mmの砂粒、3mmの白色粘土結核を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3
144	SX005		土師質土器環	10.8	3.7	6.3	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(0.5~2mmの砂粒、3mm以下の白色粘土結核を含む)	良好	浅黄	2.5YR/3
145	SX005		土師質土器環	10.9	3.5	5.0	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(1mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4
146	SX005		土師質土器環	10.7	2.9	6.4	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(1~3mmの砂粒、白色粘土結核を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3
147	SX005		土師質土器環	12.0	3.5	6.6	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(0.5mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	良好	灰白	2.5YR/2
148	SX005		土師質土器環	-	-	6.6	回転ナテ	回転ナテ	不整方向ナテ	厚(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい	調整
149	SX005		土師質土器環	11.4	3.4	5.9	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(1~3mmの砂粒、白色粘土結核を含む)	良好	にぶい	7.5YR7/4
150	SX006		土師質土器環	11.9	3.2	5.7	回転ナテ	回転ナテ	糸切り	厚(1mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	軟	黄	5YR7/8
151	SX006		土師質土器環	10.5	3.2	5.0	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(1mm以下の砂粒)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3
152	SX006		土師質土器環	10.2	3.0	6.3	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(1mm以下の砂粒)	良好	にぶい	7.5YR7/4
153	SX005		土師質土器環	10.4	3.0	5.7	-	-	ヘラ切り	厚(1.5mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3
154	SX005		土師質土器環	11.4	3.1	6.1	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後調整あり	厚(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	灰白	2.5YR/2
155	SX005		土師質土器環	10.7	3.9	6.4	回転ナテ	-	ヘラ切り後調整あり	厚(0.5~3mmの砂粒、3mm程度の白色粘土結核を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3
156	SX005		土師質土器小皿	7.6	1.2	6.0	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(1~2mmの砂粒、白色粘土結核を含む)	良好	にぶい	7.5YR7/4
157	SX005		土師質土器小皿	7.3	1.3	5.5	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(0.3~2mmの砂粒、赤色粒、3~4mmの白色粘土結核を含む)	良好	橙	7.5YR7/6
158	SX004		土師質土器小皿	7.3	1.2	5.9	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(4mm以下の砂粒、赤色粒、赤色粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/6
159	SX005		土師質土器小皿	7.0	1.2	5.2	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(2mm以下の砂粒、赤色粒、白色粘土結核を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4
160	SX006		土師質土器環	-	-	6.6	回転ナテ	回転ナテ	糸切り	厚(2mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	良好	浅黄	2.5YR/3
161	SK401		土師質土器環	13.2	3.3	7.8	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(2mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1
162	SK401		土師質土器環	11.1	3.3	7.1	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2
163	SK401		土師質土器小皿	7.4	1.2	5.7	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り後板状正取	厚(0.5~2mmの砂粒、少量の白色粘土結核を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4
164	SK401		土師質土器小皿	7.4	1.1	5.1	回転ナテ	回転ナテ	摩滅	やや厚(1mm以下の砂粒を含む、3mm以下の白色粘土結核を含む)	良好	灰白	10YR8/2
165	SK401		土師質土器小皿	7.5	1.1	5.2	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい	7.5YR7/4
166	SK401		土師質土器小皿	8.9	1.1	7.1	-	-	ヘラ切り	やや厚(0.3~2mmの砂粒、赤色粒を含む)	不良	明黄褐	10YR8/6
167	SK401		土師質土器小皿	7.6	1.3	6.0	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	やや厚(0.5~2mmの砂粒、赤色粒を含む)	不良	浅黄橙	10YR8/4
168	SK402		土師質土器環	12.5	3.9	7.2	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2
169	SK402		土師質土器環	11.3	3.7	6.2	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい	7.5YR7/4
170	SK402		土師質土器環	14.6	-	-	回転ナテ	回転ナテ	-	厚(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	浅黄	2.5YR/3
171	SK402		土師質土器小皿	7.8	1.2	6.5	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(0.5~1mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3
172	SK402		土師質土器小皿	6.7	1.2	6.0	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	やや厚(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4
173	SK402		土師質土器小皿	7.3	1.0	6.2	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	厚(0.5~1.5mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3
174	SD009		土師質土器小皿	7.2	-	-	回転ナテ	回転ナテ	ナテ	厚(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2
175	SD011		土師質土器小皿	-	-	-	回転ナテ	回転ナテ	ナテ	厚(0.5mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/2
176	27	SD005	SP211	十塚山系須賀野	14.9	-	回転ナテ	回転ナテ	-	やや厚(1mm以下の砂粒を含む)	不良	灰白	10YR8/1
177	SD005	SP211	土師質土器環	13.0	-	-	回転ナテ	回転ナテ	-	厚(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3
178	SD005	A群	土師質土器環	9.9	3.4	5.8	回転ナテ	回転ナテ	ヘラ切り	やや厚(0.3~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい	調整

第6表 大塚城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(4)



番号	写真 図説	遺構名	層位・柱 穴番号	器 種	口径	高さ	外径	器表	内部調整	底部調整	胎 土	焼成 色	調 査	備 考	
179		SD005	A群	土師質土器環	10.7	3.3	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	やや粗(2mm以下の 砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y7/3	内外面に黒染
180		SD005	A群	土師質土器環	11.0	3.2	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	中(0.5~4mm砂粒 を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	
181		SD005	A群	土師質土器環	10.4	3.0	6.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(0.5~1mm以下の 砂粒を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	
182		SD005	SP211	土師質土器小皿	7.0	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	中(0.2~1.5mmの 砂粒、3mm程度の 白色粘土を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	
183		SD005	SP211	土師質土器小皿	7.1	1.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや粗(0.3~1mm 以下の砂粒を普通 含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
184		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	1.1	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(1.5mm以下の砂 粒、白色粘土、 赤色粒	良好	灰白	2.5Y8/2	外面に黒染
185		SD005	A群	土師質土器小皿	6.9	1.0	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(0.5mm以下の砂 粒を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	
186		SD005	A群	土師質土器小皿	6.9	0.8	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナ デ	中(0.5~2mmの砂 粒を含む) 2mmの 砂粒を含む	良好	灰白	10YR8/2	
187		SD005	SP211	土師質土器小皿	6.9	0.9	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(1mm以下の 砂粒、8mm以下の白 色粘土を普通含む)	良好	灰白	10YR8/2	
188		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	1.1	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(0.5~3mmの砂 粒を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	口縁部片口
189		SD005	SP211	土師質土器小皿	7.4	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(0.5mm以下の砂 粒を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	
190		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	0.9	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(3.5mm以下 の砂粒)	良	にぶい 黄	10YR7/4	
191		SD005	A群	土師質土器小皿	7.1	1.2	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	中(2mm以下の砂粒 を含む)	良	淡黄	2.5Y8/3	
192		SD005	A群	土師質土器小皿	7.8	1.1	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(3mm以下の 砂粒を含む) 3mm以 下の白色粘土を含む	良好	淡黄橙	10YR8/3	
193		SD005	A群	土師質土器小皿	7.8	1.0	7.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(3mm以下の 砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
194		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	0.9	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや粗(0.3~4mm の砂粒、白色粘土 を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/4	
195		SD005	A群	土師質土器小皿	7.4	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、 板状圧痕	中(1mm以下の砂 粒を含む)	良好	にぶい 黄橙	10YR7/3	
196		SD005	SP211	土師質土器小皿	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	やや粗	良	黒褐	10YR3/2		
197		SD005	A群	土師質土器鉢	21.3	-	-	-	-	-	やや粗(3mm以下の 砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
198		SD005	B群	土師質土器環	11.2	3.2	6.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、 板状圧痕	中(1.5mm以下の砂 粒多量を含む、4mm 白色粘土を含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
199		SD005	B群	土師質土器環	11.2	3.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(3mm以下の 砂粒)	やや 良	灰白	10YR8/1	
200		SD005	B群	土師質土器小皿	6.7	1.1	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(0.5~2mmの砂 粒、5~8mmの白 色粘土を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/4	
201		SD005	B群	土師質土器小皿	7.2	0.9	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、 板状圧痕	中(1mm以下の砂粒 を含む)	良好	にぶい 黄	10YR7/3	
202		SD005	C群	土師質土器環	11.2	2.7	7.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや粗(4~5mmの 砂粒と5mm程度の白 色粘土を含む)	良好	淡黄橙	7.5YR8/3	外側に褐色付 着物
203		SD005	C群	土師質土器環	10.7	-	-	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	中(1mm以下の砂粒 を少量含む)	良好	淡黄橙	7.5YR8/4	
204		SD005	C群	土師質土器小皿	6.4	1.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.5~1mm の砂粒、赤色粒、 白色粘土を含む)	良好	にぶい 黄	5YR7/4	
205		SD005	C群	土師質土器小皿	7.8	1.0	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(1mm以下の砂粒 を含む)	良	灰白	10YR8/2	
206		SD005	D群	土師質土器環	10.7	3.3	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	中(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
207		SD005	D群	土師質土器環	10.8	3.7	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、 板状圧痕	やや粗(3mm以下の 砂粒を含む)	良好	淡黄橙	10YR8/3	
208		SD005	D群	土師質土器小皿	6.7	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	中(0.5~1mm以下 の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
209		SD005	D群	土師質土器小皿	7.0	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(1mm以下の砂粒 多量を含む、2mm以 下の白色粘土を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
210		SD005	D群	土師質土器小皿	6.9	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(2.5mm以下の砂 粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
211		SD005	D群	土師質土器小皿	7.3	1.4	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	中(0.5~2mmの砂 粒を含む)	要観	灰黄	2.5Y7/2	内面に褐色付 着物
212		SD005	E群	土師質土器環	10.9	3.3	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	中(0.5~1.5mmの 砂粒を含む)	良	灰白	10YR8/2	
213		SD005	E群	土師質土器環	10.8	3.3	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、 板状圧痕	やや粗(2.5mm以 下の砂粒を普通含む)	良好	灰白	10YR8/2	
214		SD005	E群	土師質土器環	11.1	2.9	5.9	回転ナデ	回転ナデ	不整方向ナ デ	中(1mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
215		SD005	E群	土師質土器環	11.2	3.4	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕及び びナデ	中(2.5mm以下の砂 粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	内面に褐色付 着物
216		SD005	F群	土師質土器小皿	7.5	1.5	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(0.5~1mm以下 の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
217		SD005	E群	土師質土器小皿	7.2	1.4	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	中(3mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
218		SD005	E群	土師質土器小皿	7.6	1.4	4.5	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕	やや粗(0.5mm~2 mmの砂粒と赤色粒 を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
219		SD005	E群	土師質土器小皿	7.1	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	中(0.2~3mmの砂 粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	

第7表 大堀城跡平成16年度調査区出土遺物観察表(5)

番号	写真 図説	遺構名 (柱・土 層番号)	器 種	口径	器高	底径	外面装	内面調整	底部調整	胎 土	焼成	色 調	備 考
220		SD005	E群 土師質土器小皿	6.5	1.0	5.1	回転ナデ	回転ナデ 底径:胎土 5.1cmナデ	ナデ	灰、粉灰(1cm以下の 砂粒をわずかに含む)	良好	灰白	10YR8/2
221		SD005	E群 土師質土器小皿	6.7	1.0	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(0.5~5mmの砂粒 と白色粘土を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/4
222		SD005	F群 土師質土器杯	11.8	-	-	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	赤(0.5mmの砂粒を わずかに含む)	良好	灰白	2.5YR/2
223		SD005	F群 土師質土器小皿	6.7	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1.5cm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3
224		SD005	F群 土師質土器小皿	7.6	1.3	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(3.5cm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	10YR8/2
225		SD006	F群 土師質土器小皿	7.5	0.9	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや赤(2mm以下の 砂粒を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/3
226		SD005	F群 土師質土器小皿	7.1	1.0	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、 板状圧痕	赤(1mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	7.5YR7/4
227		SD005	流路A 土師質土器杯	10.5	3.5	5.1	回転ナデ	回転ナデ	磨滅	やや赤(0.3~2mm の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2
228		SD005	流路A 土師質土器小皿	7.4	1.2	6.7	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	赤(2cm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3
229	27	SD005	流路A 十亀山系須恵器 羽釜	直径 1.75	-	-	-	-	-	赤(1cm以下の砂粒 を含む)	良好	黄灰	2.5Y4/1
230		SD005	流路B 土師質土器杯	10.9	3.0	6.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(2cm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/4
231		SD005	流路B 土師質土器杯	7.1	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕	赤(0.3~2mmの砂粒 と白色粘土を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3
232		SD006	流路B 土師質土器杯	12.8	3.2	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(0.2~2mmの砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/4
233		SD006	流路B 土師質土器小皿	7.1	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(3mm以下の砂粒 を含む)	良	灰白	7.5YR7/4
234		SD006	流路B 土師質土器小皿	7.3	1.3	4.4	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	赤(0.5cm以上の砂粒 と3mmの白色粘土 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/4
235	27	SD006	流路B 十亀山系須恵器 小皿	7.7	1.2	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1cm以下の砂粒 を含む)	堅硬	灰黄	N6/0
236		SD006	流路B 土師質土器小皿	7.6	1.0	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1mm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/4
237		SD006	流路B 土師質土器小皿	7.6	1.1	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1mm以下の砂粒 を含む)	良	灰白	10YR8/2
238		SD005	流路B 十亀山系須恵器 小皿	7.9	1.6	3.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(0.5cm以下の砂粒 を含む)	良好	暗黄灰	2.5Y4/2
239	27	SD005	流路B 十亀山系須恵器 羽釜	14.6	-	-	上土:回転 下土:ナデ	回転ナデ	-	赤(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	2.5Y8/1
240		SD005	流路B 土師質土器土鍋	39.8	-	-	-	-	-	やや赤(2.5cm以下の 砂粒を含む)	良好	灰白	10YR7/3
241		SD006	流路B 土師質土器土鍋	46.1	-	-	-	-	-	やや赤(2.5cm以下の 砂粒を含む)	やや赤	灰白	10YR8/2
242		SP077	土師質土器杯	10.7	3.3	5.7	-	回転ナデ	-	赤(2~3mmの砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/3
243		SP272	土師質土器杯	10.7	3.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(0.5mm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/2
244		SP199	土師質土器杯	10.4	2.8	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(3mm以下の砂粒 を含む)	不良	灰白	10YR8/2
245		SP072	土師質土器杯	10.2	2.6	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	やや赤(2mm以下の 砂粒を含む)	良好	浅黄灰	2.5Y8/3
246		SP087	土師質土器杯	10.2	3.0	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3
247		SP079	土師質土器杯	11.6	2.7	6.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	2.5Y8/3
248		SP168	土師質土器杯	10.8	3.4	7.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや赤(3mm以下の 砂粒を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/4
249		SP072	土師質土器杯	14.8	4.1	8.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	赤(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	10YR7/4
250		SP079	土師質土器小皿	5.5	1.3	4.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	2.5Y8/4
251		SP251	土師質土器小皿	5.7	1.0	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(0.5~1.5mmの砂粒 と3mm程度の 白色粘土を含む)	良好	黄	5YR6/8
252		SK009	土師質土器小皿	6.4	0.9	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(1cm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	7.5YR8/1
253		SP214	土師質土器小皿	6.3	0.9	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	赤(1~3mmの砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/3
254		SP072	土師質土器小皿	6.2	1.1	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 板状圧痕	赤(2mm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/3
255		SP075	土師質土器小皿	6.5	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや赤(1mm以下の 砂粒を含む)	良好	灰黄	2.5Y7/2
256		SP079	土師質土器小皿	6.8	1.2	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや赤(1mm以下の 砂粒を含む)	良好	灰白	10YR7/3
257		SP089	土師質土器小皿	6.4	1.1	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(2.5cm以下の砂粒 を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3
258		SP122	土師質土器小皿	6.8	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(3.5cm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	2.5Y8/2
259		SP158	土師質土器小皿	7.4	1.2	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや赤(3mm以下の 砂粒を含む)	良好	浅黄灰	7.5YR8/4
260		SP205	土師質土器小皿	7.3	1.2	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(2mm以下の砂粒 と白色粘土を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3
261		SP162	土師質土器小皿	6.7	1.0	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや赤(2.5cm以下の 砂粒、白色粘土を含む)	不良	浅黄灰	7.5YR8/4
262		SP263	土師質土器小皿	7.5	1.3	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	赤(1mm以下の砂粒 を含む)	良好	灰白	10YR8/2
263		SP173	土師質土器小皿	7.4	0.8	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや赤(0.3~1mm の砂粒を含む)	良好	浅黄灰	10YR8/3

第8表 大堀城跡平成16年度調査区出土遺物観察表(6)

番号	器具 図例	遺構名 層位・柱 穴番号	器 種	口径	器高	底径	外周調整	内周調整	底部調整	胎 土	焼成 色	調 備	考	
264		SP040	土師貫土器小皿	8.1	1.3	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	黄(0.5cm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
265		SP090	土師貫土器小皿	8.1	1.3	6.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	黄(0.5～2mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	7.5YR8/2	
266		SP118	中国産白磁皿	-	-	6.0	-	-	糸切り先細軸	黄(0.5～1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	白 5Y6/1 黄土5 GY8/1	
267		SP118	中国産白磁皿	14.3	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	黄(0.5～1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR/1	
268		SP101	土師貫土器羽蓋	-	-	-	-	-	-	やや粗(1～3mmの砂粒が多い)	良好	黄褐色	7.5YR8/3	
269		SP071	土師貫土器羽蓋	19.6	-	-	-	ナデ	-	黄(3mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	10YR8/3	
270		上原野舎	弥生土器広口甕	20.2	-	-	円縁3条 ナデ	草紙	-	やや粗(1～4mmの砂粒を含む)	良好	黄	2.5YR8/8	
271		SP022	弥生土器壺	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	やや粗(2～3mmの砂粒を含む)	良好	明褐色	7.5YR8/8	
272		SK008	弥生土器壺	-	-	-	-	-	-	黄(1mm以下の砂粒を多少含む)	良好	にぶい黄	7.5YR7/4	内面に赤色黒鉛塗布
273		SP022	弥生土器壺	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	-	やや粗(0.5～2mmの砂粒を含む)	良好	明褐色	2.5YR8/8	
274		SP111	弥生土器瓶胴部	-	-	-	円縁(5条+ 1條のナデ)	ナデ、指 押さへ	-	黄(1.5cm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	7.5YR8/3	
275		SA001	土師貫土器小皿	10.9	2.6	6.6	回転ナデ	回転ナデ	一定方向ナ 調整	黄(1～2mmの砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
276		横塚遺跡	土師貫土器小皿	6.4	1.1	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄	良好	灰白	7.5YR8/3	
277		横塚遺跡	土師貫土器小皿	7.0	1.3	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後 ナデ	黄(0.5～2mmの砂粒を多少含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
278		横塚遺跡	土師貫土器小皿	7.0	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(0.5～1mmの砂粒を多少含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
279		横塚遺跡	土師貫土器小皿	7.3	1.1	5.5	回転ナデ	-	-	黄	良好	灰白	10YR8/2	
280		上原野舎	土師貫土器小皿	8.0	1.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(0.5～2mmの砂粒を多少含む)	良好	灰白	10YR8/2	
281		上原野舎	土師貫土器小皿	6.6	0.6	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(0.5cm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	外面に赤褐色付着物
282		横塚遺跡	土師貫土器小皿	6.6	1.0	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(1mmの砂粒をわずかに含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
283		上原野舎	土師貫土器小皿	7.3	1.0	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(3mm以下の砂粒を多少含む)	良好	黄褐色	7.5YR8/4	
284		上原野舎	土師貫土器小皿	7.5	1.0	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(1cm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	7.5YR8/3	
285		上原野舎	土師貫土器小皿	7.3	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(0.5～1mmの砂粒をわずかに含む)	良好	黄褐色	7.5YR8/3	
286		横塚遺跡	土師貫土器小皿	7.0	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未 調整	黄(0.5cm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	7.5YR8/3	
287	25	上原野舎	中国産陶器承 背磁皿	16.8	-	-	-	-	-	黄、緑黄	良好	灰 赤 7.5Y5/3		
288	25	上原野舎	中国産陶器承 背磁皿	-	-	-	-	-	-	黄、緑黄	良好	灰 赤 7.5Y5/3		
289	25	上原野舎	中国産陶器承 背磁皿	-	-	2.9	-	-	-	黄(0.5～1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄 赤 7.5GY8/1 赤 2.5Y5/7		
290	25	上原野舎	中国産陶器承 背磁皿	-	-	4.3	-	-	-	黄	良好	灰 赤 5Y7/1 赤 10Y5/2		
291	26	横塚遺跡	亀山系須恵器壺	21.6	-	-	格子目印キ	ナデ	-	黄	良好	灰白	2.5Y7/1	
292		横塚遺跡	肥前系須恵器付台	12.8	-	-	-	-	-	黄	良好	灰白 黄 5Y8/1 10Y 7/1 10Y8/1		
293	29	SP216	石錫	35.4	-	-	ノミ痕	-	-	石材 滑石	-	灰	N6/0	内面に5cm 大の黒色炭化物
294	29	SB007	SP193 磁石	長さ 8.4	幅 3.85	厚さ 0.6	磨痕	-	-	石材 京都産鳴滝 流紋岩片	-	にぶい 黄褐色	10YR7/4	
295	29	SB010	SK013 磁石	長さ 2.7	幅 1.1	厚さ 0.3	磨痕	-	-	石材 流紋岩片	-	黄褐色	10YR7/3	
296	29	SB011	SK012 磁石	長さ 2.9	幅 2.2	厚さ 0.5	磨痕	-	-	石材 朝鮮花崗岩 貫成流紋岩片	-	灰白	2.5Y8/1	
297	29	SB010	SK014 磁石	長さ 4.9	幅 2.55	厚さ 0.65	磨痕	-	-	石材 頁岩	-	灰	N4/0	
298	29	SB007	SP083 大打ち石	長さ 1.3	幅 1.3	厚さ 0.3	-	-	-	石材 チャート	-	暗赤褐色	2.5YR3/6	
49		SX 004	銅銭(開元通宝)	直径 2.4	幅 -	厚さ 0.1	-	-	-	重さ 2.33	-	灰 赤 オリーブ	7.5Y5/2	
50		SX 004	銅銭(開元通宝)	直径 2.5	幅 -	厚さ 0.15	-	-	-	重さ 1.91	-	灰 赤 オリーブ	7.5Y5/2	
51		SX 004	銅銭(天授元宝)	直径 2.4	幅 -	厚さ 0.1	-	-	-	重さ 1.27	-	灰 赤 オリーブ	7.5Y5/3	
52	30	SX 004	銅銭	直径 2.3	幅 -	厚さ 0.18	-	-	-	重さ 2.07	-	灰 赤 オリーブ	5GY5/1	
299	31	SP 177	金銅製鈴金具	長さ 3.3	幅 -	厚さ 0.8	-	-	-	重さ 1.73	-	緑灰	10Y6/1	
300		SP 257	銅銭	長さ 1.3	幅 1.0	厚さ 0.1	-	-	-	重さ 0.26	-	灰 赤 オリーブ	5Y6/3	有機物付着
301		SA003	SP210 銅銭	直径 2.6	幅 -	厚さ 0.2	-	-	-	重さ 0.94	-	灰 赤 オリーブ	5Y5/3	
302	32	SP 199	鉄製刀子	長さ 11.1	幅 1.3	厚さ 0.3	-	-	-	重さ 36.78	-	明赤黄	10YR6/6	
303	32	SP 115	毛抜き	長さ 4.3	幅 1.55	厚さ -	-	-	-	重さ 10.60	-	黄	7.5YR4/4	
304		SX 006	鉄釘	長さ 4.1	幅 0.55	厚さ 0.55	-	-	-	重さ 7.05	-	黄褐色	10YR5/8	
305		SP 209	鉄釘	長さ 3.25	幅 0.3	厚さ -	-	-	-	重さ 2.77	-	黄褐色	10YR7/8	

第9表 大塚城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(7)

番号	器具 頭数	遺構名	層位・柱 穴番号	種 類	口径	高さ	底径	外 径	厚 度	内面調整	底面調整	土 質	構成	色 調	備 考	
306		SK008		鉄釘	長さ 3.5	幅 0.5	厚さ 0.4		重さ 6.97					明黄褐	10YR5/5	
307	32	SP113		鉄釘	長さ 3.15	幅 0.45	厚さ 0.3		重さ 9.89					黄褐	10YR5/5	
308		SB007	SP269	鉄釘	長さ 3.5	幅 0.4	厚さ 0.35		重さ 6.33					赤褐	5YR4/6	
309		SP217		鉄釘	長さ 3.6	幅 0.4			重さ 2.58					褐	7.5YR6/5	
310		SP078		鉄釘	長さ 3.8	幅 0.5			重さ 8.79					明褐	7.5YR5/8	
311	32	SD005	遺棄土 層入前	鉄釘	長さ 4.15	幅 0.55			重さ 6.09					明褐	7.5YR5/8	
312	32	SP087		鉄釘	長さ 3.95	幅 0.6			重さ 15.77					橙	7.5YR6/8	
313	32	SA001	下層	鉄釘	長さ 3.65	幅 0.6			重さ 13.93					明黄褐	10YR5/5	
314	32	SB008	SP116	鉄釘	長さ 3.3	幅 0.45			重さ 9.56					明赤褐	5YR5/8	
315	32	SB011	SX004	鉄釘	長さ 4.75	幅 0.45			重さ 9.92					明黄褐	10YR6/8	
316		SB011	SX004	鉄釘	長さ 4.2	幅 0.7			重さ 7.71					暗褐	7.5YR3/4	
317		SB007	SP172	鉄釘	長さ 4.25	幅 0.7	厚さ 0.55		重さ 10.24					褐	7.5YR6/5	
318		SB010	SP128	鉄釘	長さ 4.9	幅 0.65			重さ 14.80					橙	7.5YR6/8	
319		SP113		鉄釘	長さ 5.2	幅 0.6			重さ 10.82					明黄褐	10YR7/8	
320	32	SB011	SP143	鉄釘	長さ 4.2	幅 0.7	厚さ 0.5		重さ 14.18					黄褐	10YR5/8	
321	32	SP065		鉄釘	長さ 3.6	幅 0.9			重さ 9.88					黄褐	10YR5/5	
322		SD005		鉄釘	長さ 3.5	幅 0.4			重さ 38.35					黄褐	10YR5/8	
323		SX003		鉄釘	長さ 3.9	幅 0.5			重さ 3.63					黄褐	10YR5/8	
324		SX001		輪郭口	外径 7.6	内径 2.0								黄 (3mm以下の砂 粒を含む)	5YR6/3	ガラス質部分 あり
325	33	SB011	SP236	埴土	長さ 2.8	幅 2.05	厚さ 0.75							- にぶい 黄褐色	10YR7/2	平断面あり
326	33	SB011	SP143	埴土	長さ 3.45	幅 2.8	厚さ 2.0							- にぶい 黄褐色	10YR7/3	平断面あり
327	33	SB011	SP143	埴土	長さ 7.15	幅 5.3	厚さ 1.75							- にぶい 黄褐色	10YR7/4	平断面あり
328	33	SB011	SP143	埴土	長さ 5.9	幅 5.4	厚さ 3.95							- 浅黄褐色	10YR8/3	
329	33	SB011	SK012	埴土	長さ 5.45	幅 4.3	厚さ 3.2							- にぶい 黄褐色	10YR7/4	平断面あり

第10表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(8)

柱穴番号	建物番号	備 考
SK007	SB001	
SK012	SB011	
SK013	SB010	
SK014	SB010	
SP024	SB001	
SP006	SB001	
SP007	SB002	
SP008	SB002	
SP009	SB002	
SP011	SB002	
SP013	SB002	
SP015	SB001	
SP018	SB002	
SP019	SB001	
SP020	SB001	
SP023	SB001	
SP024	SB001	
SP028	SB001	
SP037	SB001	
SP039	SB001	
SP043	SB002	SK006
SP062	SA005	
SP063	SA006	
SP067	SA004	
SP068	SA006	

柱穴番号	建物番号	備 考
SP067	SA004	
SP068	SA006	
SP081	SB007	
SP083	SB007	
SP084	SA005	
SP093	SA003	
SP099	SB007	
SP100	SB007	
SP103	SA003	
SP104	SA002	
SP107	SB007	
SP109	SB009	
SP112	SB007	
SP116	SB008	
SP121	SB007	
SP124	SB010	
SP126	SA004	
SP128	SB010	
SP132	SA004	
SP135	SB007	
SP139	SB010	
SP140	SB008	
SP142	SB007	
SP143	SB011	
SP144	SA004	

柱穴番号	建物番号	備 考
SP145	SA002	
SP146	SB010	
SP147	SB007	
SP157	SB009	
SP159	SB007	
SP161	SB009	
SP163	SB007	
SP165	SB008	
SP171	SB011	
SP172	SB007	
SP175	SB007	
SP179	SB007	
SP193	SB007	
SP197	SB011	
SP199	SA002	
SP210	SA003	
SP225	SB009	
SP231	SB008	
SP236	SB011	
SP243	SB007	
SP244	SB010	
SP256	SB007	
SP269	SB007	
SX003	SB007	
SX004	SB011	

第11表 大堀城跡検出遺構一覧表



写真1 大堀城跡周辺の空中写真 出典は国土交通省提供の国土画像情報（カラー空中写真）



写真2 I区区画溝SA001以南の遺構を北から撮影



写真3 I区遺構分布状況を北から撮影

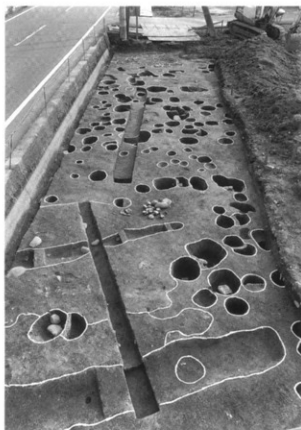


写真4 II区SD005以南の遺構を北から撮影

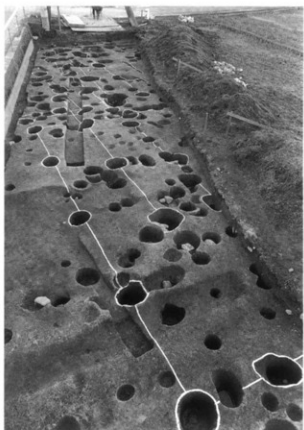


写真5 II区SD005以南の建物復原状況を北から撮影



写真6 I区画溝SA001及び方形土坑SX001の検出状況を南から撮影

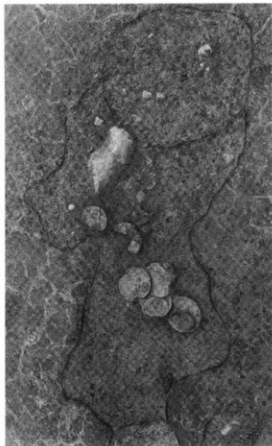


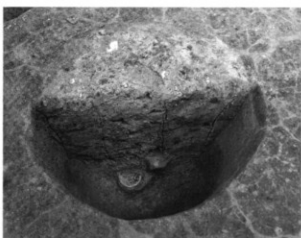
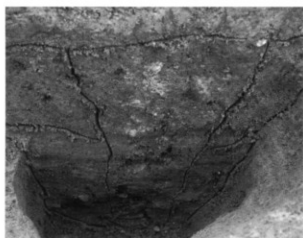
写真8 II区掘立柱建物SB011柱採取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から撮影



写真7 I区区画溝SA001の石垣を北から撮影



写真9 II区掘立柱建物SB011柱採取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から拡大撮影



10	11
12	13
14	15

写真10 I区区画溝SA001下層の青磁小椀出土状況を北から撮影

写真11 I区方形土坑SX001を北から撮影

写真12 II区掘立柱建物SB007柱穴(SP081)断面を東から撮影

写真13 II区SP158柱抜取後の土器投棄状況の断面を南から撮影

写真14 II区SD005土器溜りA群・B群を北から撮影

写真15 IV区遺構完掘状況を北から撮影





写真16 Ⅲ区西壁断面と堀跡とされる地形の窪みを東から撮影

写真17 Ⅲ区西壁断面と現状の畦に使用される石垣を東から撮影

写真18 Ⅲ区完掘状況を北から撮影

写真19 調査区より南の現存土塁を東より撮影

写真20 調査区より南の堀跡内の出水を西から撮影





写真21 II区調査区内出土の土師質小皿



写真22 II区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004地鎮祭祀遺構出土品



147~159

写真23 II区土器廃棄土坑SX005出土の土師質土器坏

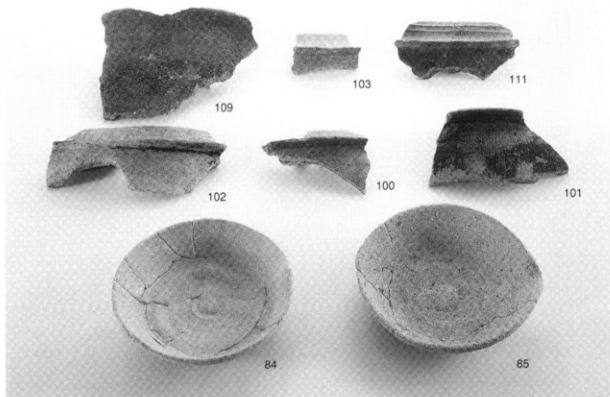


写真24 I区区画溝SA001出土の土師質土器

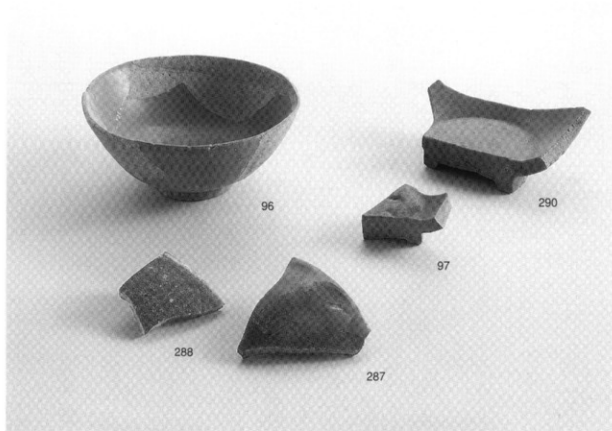


写真25 I区・II区出土の中国産龍泉窯系青磁椀

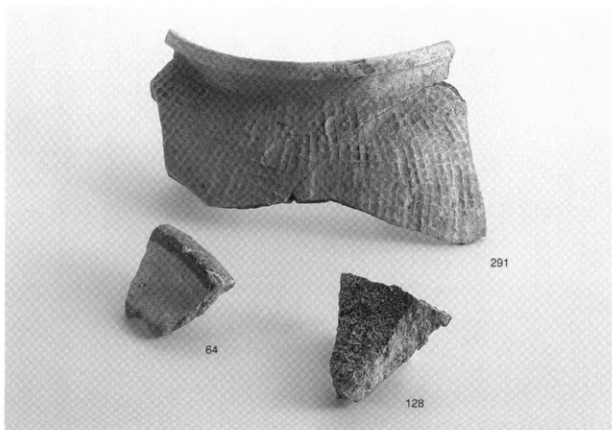


写真26 I区・II区出土の亀山系須恵器甕・東播系須恵器捏鉢・常滑系陶器大甕



写真27 I区・II区出土の十瓶山系須恵器椀・鉢・小皿・羽釜



写真28 II区SD005土器溜りA群出土の土師質土器



写真29 調査区内出土の石器・石製品



299



299

写真30 II区柱穴 (SP177) 出土の金銅裝飾全具表面 写真31 II区柱穴 (SP177) 出土の金銅裝飾全具裏面

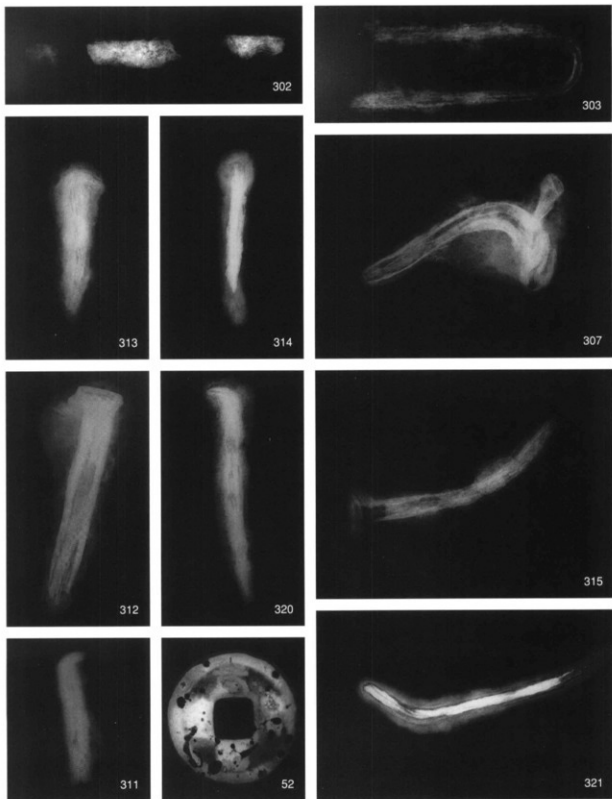


写真32 調査区内出土鉄器・銅銭のX線写真

香川県歴史博物館撮影

撮影データ 鉄器 65KV8MA1M

銅銭 70KV8MA1M

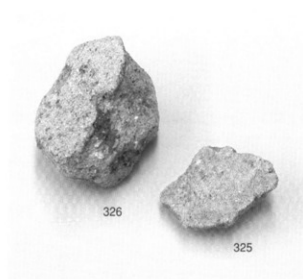


写真33 II区南側出土の焼土



## 報告書抄録

ふりがな	おおほりじょうあと							
書名	大堀城跡							
副書名	県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
編著者名	森下英治							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関	香川県教育委員会							
発行年月日	西暦2005年3月31日							
総頁数	目次等	本文	観察表等	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数	
64頁	5頁	38頁	8頁	12頁	31枚	33枚	2枚	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町 遺跡		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
おおほりじょうあと 大堀城跡	かがけほりんなかた 香川県仲多 どくまんのうらちょう 度部高濃町 よしの 吉野1189-5外	37402	40035	34度10分 45秒	133度51分 35秒	2004.10.01 ～ 2004.11.30	450m <sup>2</sup>	県道財田 満濃線 道路拡幅 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大堀城跡	城館跡 集落跡	鎌倉時代～ 室町時代	区画溝・石垣・掘立 柱建物・地鎮遺構・ 排水溝		常滑焼・亀山焼・東播 系須恵器・瓦器・京都 産砥石・チャート製火 打石・鉄釘・鉄滓・羅羽 口・開元通宝・天聖元 宝・青銅製品・銅滓		13～14世紀の区画溝 を伴う集落跡。区画溝 に石垣を伴う。 絵図に示された堀および 土塁との関係は不明。	

県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

### おおほりじょうあと 大堀城跡

平成17年3月31日

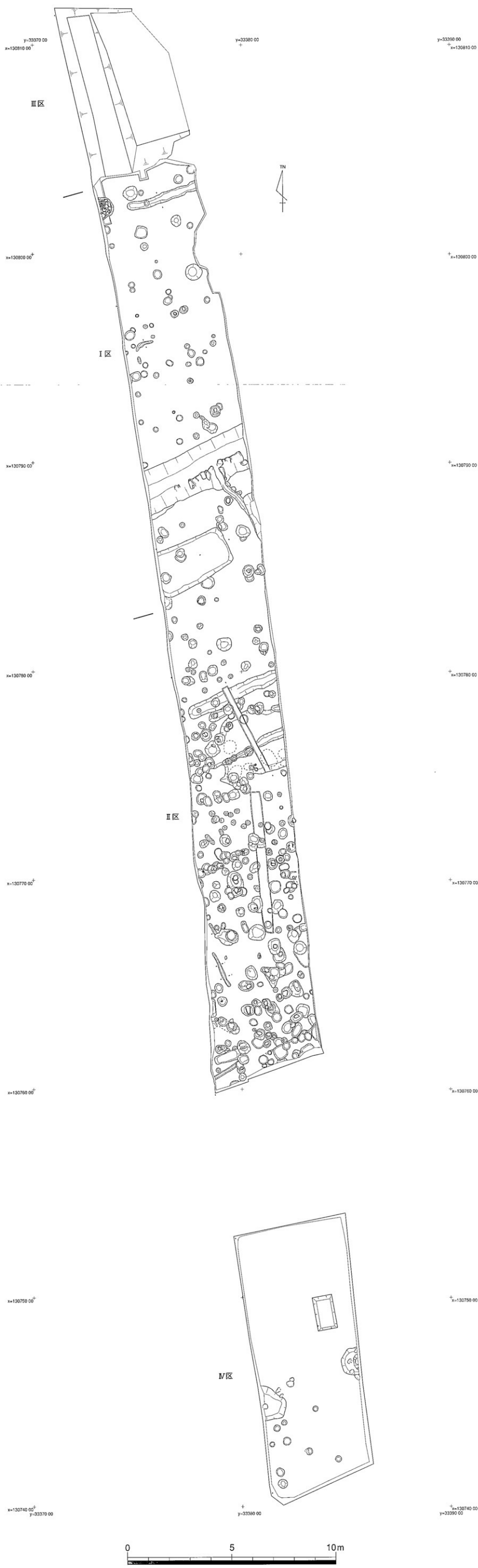
編集 香川県埋蔵文化財センター  
香川県坂出市府中町字南谷5001-4  
Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 太陽印刷株式会社



付図1 大堀城跡遺構配置図1 (S=1/100)



付図2 大堀城跡遺構配置図2 (S=1/100)

